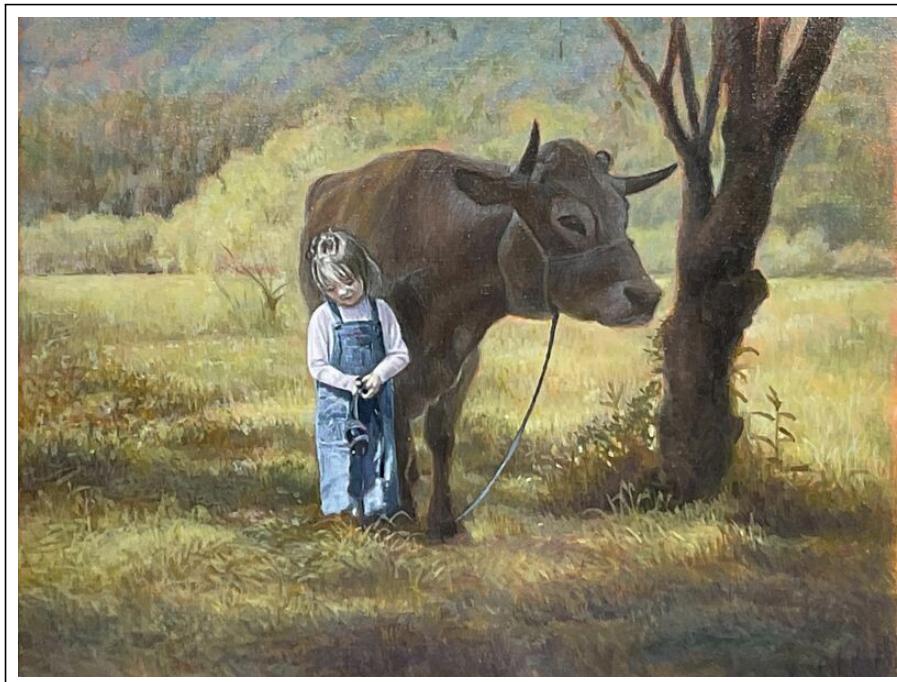


日本語：ナチュラル・ステップ

自然な言語の学び方と話し方

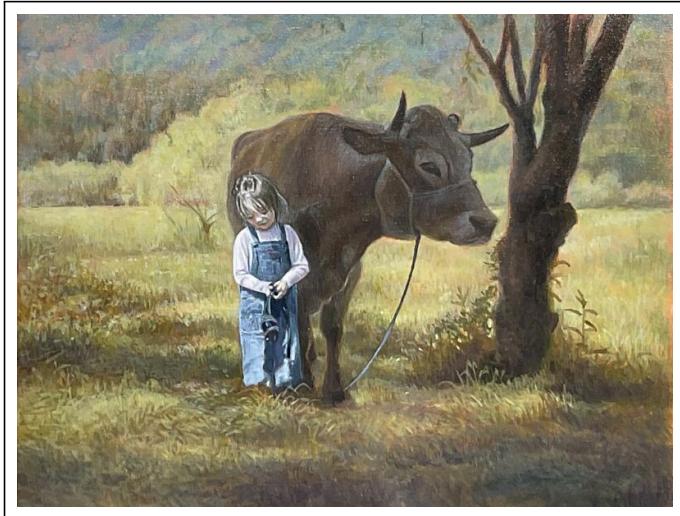


山元 啓史

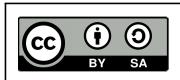
Ph.D. in Linguistics



日本語: ナチュラル・ステップ: 自然な言語の学び方と話しか方



A little girl with a cow
© Yoshio Yamamoto 2021



Hirofumi Yamamoto, Ph.D.
Institute of Science Tokyo

はじめに

本書は著者が東京科学大学で開講していた日本文化コース、ストラテジック・ジャパニーズの教科書「ストラテジック・ジャパニーズ」のうち、「自然な話し方」を抜き出した分冊である。おそらく「自然な話し方」を達成するためには、2つの自然なアプローチが必要であろう。1つは、会話自体が自然であること、もう1つは学び方が自然であることである。「自然な話し方」は文型、語順というルールをあえて無視すること。一方、句の中の語順を無視すること、動詞を正確に活用しないで使うことは、意味が大きく違ってしまい、言いたいことが伝達できないので、これらについては詳しく説明し、練習するよう強調している。このことを押さえておけば、日本語は比較的自由に話せる。

技術は少しづつ難しくしてだんだん上手になっていくものなのに、初級の教科書を見ると、とうてい覚えられそうもないような長い文が出てくる。覚えられないのだから、言えるはずもない。会話が難しいとか発音が難しいとかは、学ぶ側の問題ではなく、教える側の問題だ。教師が本当に口を開くとはどういうことなのか、その現実を分析していないから、学生に不安を与え、学生の自信を奪う。教師の会話場面の分析不足は、教師が言語学習初期の学生を子供のように扱うことからも推測できる。短い発話は、子供っぽい言い方ではない。子供っぽさは扱う内容にある。大人の文脈で短く表現されるコミュニケーションはいくらでもある。その現実を取り出し、必要とされる場面を見せることが教師の仕事だと考えている。

山元 啓史
東京科学大学教授

目次

第1章 言語構造の概要	1
1.1 動詞を使わない会話文	1
1.2 構造と会話の流れ	2
1.3 文法の学び方	4
1.4 推薦するもの	6
第2章 まずは基礎から	9
2.1 すぐに反応する: うち、来る?	9
2.2 動詞の基本: 私のある1日	11
2.3 持っている/要る	16
2.4 動詞否定形	18
2.5 イ形容詞・ナ形容詞	18
2.6 自然な助詞の使い方	20
第3章 自然に話すこと: Part 1	23
3.1 3語で質問	23
3.2 何かはじめた?	26
3.3 「ある」は「持っている」の意味	29
3.4 「知っている?」「知らない」	30
3.5 感想・印象・感情を話す	32
第4章 自然に話すこと: Part 2	37
4.1 もう・まだ・過去形・完了形	37
4.2 誘う・招待する	40
4.3 説得と反応	42
4.4 進行中のことを報告する	44
4.5 可能の表現	45
4.6 ディスカッション	47

第5章	自然に話すこと: Part 3	49
5.1	経験を話す	49
5.2	～ようと思ったけど	52
5.3	アドバイスを求める・する	54
5.4	後悔の念	56
5.5	理由を並べて言う	58
第6章	ストラテジー: Strategic patterns	61
6.1	ひとり言をいう: Talk to yourself	61
6.2	相づちを打つ: Giving a response—Aizuchi words	63
6.3	3語で話す: Three-word conversational sentences	65
6.4	感じていることをいう: Expressing your feelings	67
6.5	動詞を作ってみよう: Making a verb	68
6.6	英語を日本語風に: Pronounce English in a Japanese way	70

第1章

言語構造の概要

会話練習を始める前に知っておくべきことはあまりない。学生は実際の会話や作文の練習に集中すればよい。ただし、あらかじめ、実際の練習を長続きさせるための工夫や、最低限の言語の仕組みを学んでおいたほうが良い。

1.1 動詞を使わない会話文

動詞を使わない会話文の例として、名詞や感嘆詞、形容詞のみを使った簡潔な表現が挙げられます。以下にいくつかの例を示す。

1. 1. あいさつや感想

- A: こんにちは！
B: きれいだね！
C: すごい！

2. 2. 感嘆や返答

- A: ほんとに？
B: まあ！
C: それで？

3. 3. 名詞だけでの表現

- A: その写真、最高！
B: 昼ごはん、カレーライス？
C: 次は、私の番？

4. 4. 状況説明や提案

- A: 明日、午後3時？
B: これ、どう？

C: もう少し、時間？

これらのように、動詞を使わずに感想や状況を伝えることができ、短い会話のやり取りに自然に使われる。これらには、動詞のような複雑な語形変化がないため、初心者でもすぐに使える。むしろ、動詞を使わないことで、会話のスピードが速くなり、会話がスムーズに進む。

さきほどの例は、単純な発話にのみ当て嵌るだけだと考えている人もいるかもしれません。しかし、実際の会話は、単語や短いフレーズを組み合わせて、意味を持ったやり取りが行える。動詞を使わない、比較的まとまったやりとりをするダイアログの例を以下に示す。

A: 次の旅行、どこ？

B: たぶん、京都。紅葉の季節、最高のタイミング！

A: いいなあ。京都、何年ぶり？

B: 3年ぶり。前回、桜の時期だったけど、秋も楽しみ！

A: お土産、よろしくね！

B:もちろん。何がいい？

A: 八つ橋！そう、生八つ橋、抹茶味。

B: 了解！

このダイアログでは、動詞を使わず、名詞や形容詞、助詞のみでやりとりを行っているが、意味が通じる会話になっている。

1.2 構造と会話の流れ

日本語という言語の構造と会話の流れに注目すること。日本語の語順は、比較的自由である。主語は文脈で理解できる限り、省略しても良い。これは日本語に限られたことではない。どの言語でも、語順はかなり自由であり、特に会話において、話者や動作主がわかれれば、多くの語が省略できる。したがって、思った順に安心して話してもよい。ただ、まったく自由にすべての語の順序を変えたり、好きな語を省略してもよい、というわけではない。

問1 自分の母語を話す時、主語を省略してもよいかどうかを考えなさい。会話の中で省略してもよいか、また、書きことばでも省略してよいかどうかを考えなさい。

答1 どの言語でも、一語の発話が見られる。最も大切な語だけを発話して、意味が明確であれば、一語で意味が伝わる。もし意味が曖昧なら、語を追加して、曖昧さを解消する。それが主語であるか、目的語であるかは、そのときの文脈による。省略し

てもよいかどうかも文脈によるが、多くの場合、省略してよいはずだ。

1.2.1 語順

日本語の語順は比較的自由である。ただし、語や句の中の順番は変えられない。動詞の形は教科書で扱われている順が正しい。動詞の後に時制や態を表す助動詞が来る。その順番が逆になることは決してない。(名詞1)の(名詞2)が(名詞2)の(名詞1)の形になつたら意味はぜんぜん違ってしまう。句の中の語順を変えてはいけない。動詞句や名詞句の中の語順は変えられない。これらはいくつかの単語がつながったものと考えるのではなく、比較的長い形の動詞、長い形の名詞を考えるべきである。そのように考えると、日本語の語順は話し手がいいたいことを考えた順番で話しても良いことになる。思考の順序で話してよい。それがもっとも脳に負担を掛けない話し方であろう。

問2 自分の母語を話す時、語の順番は比較的自由に話してもよいかどうかを考えなさい。

1.2.2 助詞の省略

名詞の後には助詞をつける。それは手紙や論文を書く時で、会話では助詞を省略する方が自然である。ただし、文脈によって省略できない助詞がある。移動の動詞、行く・来る・出発する・到着するなどの場合、到着地「に」、動作場所「で」、出発地「を」などは意味をはっきりさせるために必要である。語順が他の言語と違うと感じられるのであれば、それは言語の構造として違うのではなく、社会や文化の構造が原因でその語順が使われていると考えたほうが良い。遠回りのように感じるかもしれないが、言語よりもむしろ先に文化の知識を身につけておく方が言語の習得に有利であろう。

問3 あなたの言語に日本語の助詞に相当するものがあるかどうか考えよ。また、それと日本語の助詞との相違についても話し合え。

1.2.3 動詞の活用

動詞の活用は間違えてはいけない。動詞の活用を間違えるのは、違う単語を使っているのと同じである。動詞を中心とする述部の音には注意せよ。述部にはさまざまな小さな音が連なって意味ある文字列になっている。その中でも動詞の活用に関わる音は重要な意味を担う。ゆえに意味に即した動詞の形が速やかに発声できるような練習が必要である。

問4 動詞の活用形は複雑かもしれないが、それぞれの活用形が同じ頻度で使われているかどうかを考えなさい。また、どれがもっともよく使われる形か考えなさい。

1.3 文法の学び方

よく使われる動詞、よく使われる形から学ぶこと。すべての活用形が同じ頻度で使われるわけではないので、活用形のすべてを覚える必要はない。単に頻度が高いからという理由で学ぶのではなく、覚えやすい順番と覚え方の技術を身につけること。すぐに使える形を見つけ、忘れる前にすぐ使う。これを繰り返す。

問5 「行く」「来る」「食べる」「いる」「する」は日本語で何というかを調べなさい。この5つの動詞を今すぐ覚える方法を考え、実践してみなさい。

1.3.1 発話

発話は物理的に息を出す行為である。できるだけエネルギーを使わないで発話する方法を考えること。もっとも簡単な返答は、発話せず、表情やうなずきだけで意思を伝えることである。「発話しない」には限度があるので、発話する場合は、3語程度の短い句を覚え、その短い句を速やかに発話する。短い句であれば、綴を知らなくても覚えられる。会話で一息で言うには3語が限度と考える。3語で素早く発話するゲームをグループ活動で作ってやってみる。

問6 3語程度で言える簡単なフレーズを考えなさい。

1.3.2 動詞

動詞は、文を構成する上でもっとも重要な文の要素である。動詞には活用がある。それぞれの動詞には基本的な意味があると同時に、活用形毎に意味がある。初心者には、辞書形と否定形を対で覚えることをお勧めする。そうすれば「テ形」を作るのに苦労しない。掛け算の九九や歌謡曲の歌詞を覚えるように、辞書形、否定形、テ形を覚える。会話の途中で活用形を考え、発話するのは現実的ではない。現実的でない練習に意味はない。会話では、動詞のテ形を中心に話すこと。テ形を使えば、過去でも未来でも現在の状態でも命令でも依頼でも感想でも何でも表現できる。「それ見て、思って、青かな?と」「昨日、やって」「明日、行って、大学へ」「どうぞ、食べて…」など。

動詞の活用は、III グループ、II グループ、そして I グループの順に覚えること。III グループは日常生活で頻繁に使われる。II グループは語幹が変化しない。I グループは否定形の語幹がア段であることを先に覚えておけば、それ以外はIIあるいはIII グループである。まとめると、動詞の覚え方は、次の3点で十分である。

1. 動詞の活用形は、辞書形と否定形の対で練習
2. III グループ、II グループ、そして I グループの順に練習
3. 「ない」の前が *a* なら I グループ、*i* あるいは *e* なら II グループ

問 7 「行く」「来る」「食べる」「いる」「する」は日本語で何というかを調べなさい。この 5 つの動詞を今すぐ覚える方法を考え、実践してみなさい。

1.3.3 形容詞：イ形容詞、ナ形容詞

形容詞（イ形容詞）も動詞と同様、辞書形と否定形をペアで練習するとよい。「いい？ よくない？」「すごい？ すぐくない？」「おいしい？ おいしくない？」など。これは別に変な使い方ではない。むしろ、これには強調、同意、共感を求める機能があり、実際の日本語会話に頻繁に見られるパターンである。ナ形容詞も、辞書形、否定形のペアで覚えておくと便利である。後ろに名詞をつけて「きれいな花」と名詞句で覚えるのも実用的である。「元気な人」「有名なところ」「たいへんな経験」など。

問 8 日本語の形容詞は 2 種類ある。それぞれの特徴を述べよ。

1.3.4 固有名詞が先

言語を学ぶということは、文化を学ぶということである。文化を学ぶということは、言語を学ぶということである。文化と切り離された言語は存在しない。スーパーマーケットということばそのものは存在するが、実際にはそれよりも、「東急ストア？」「東急、行く？」のように固有名詞が使われる。ハンバーガーショップということばよりも、「マクドナルド」「マック」「マクド」が実際には使われる。一般的な名詞を学ぶよりも固有名詞、すなわち文化（上記の例であれば特定地域）に直接依存した語の方が現実的である。

問 9 自分の言語で話す時、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど、生活に密接なものは、固有名詞と一般名詞とどちらがよく使われているかを考えなさい。

1.3.5 俗語と慣用句

俗語と慣用句も重要である。俗語はその時代に依存した状況から生まれてきた、期間限定の語である。流行語も若者ことばも類似の性質を持っている。たとえば、マンネリ (*in a rut*)、マジ?、超ムズ、ぼちぼち、やんなっちゃう、あきまへん、そういうもんよ、ダサい、やばい、などのことばである。

問10 自分の言語で、若者ことばと俗語が使われているかどうか、考えてみなさい。

1.3.6 短い言い方と素早い返答

会話の命はスピードである。表現を口から出す限り、スピードは最も大切である。スピードを確保するには、言語の形式はもっとも短く、即座に反応することである。もっとも短い形式をあらかじめ学び、それを発話する口や喉の筋肉を鍛える必要がある。話し相手から聞かれたら、黙っていてはいけない。短い形で即座に返答するリズムに慣れること。そして短い発音しやすいフレーズをたくさん準備しておくこと。短い形は、もっとも経済的で発音しやすい形で相手に伝わりやすい言語形式である。即座に反応すること。それができない場合には、「ああ、えーと」などを使い、反応だけでも即座に行う。

問11 自分の言語でも、すぐに返答できないとき、何か発話して反応しているだろう。どんなことばで反応しているか、を考えてみなさい。

1.3.7 丁寧さ

フォーマルな言い方をする時には、カジュアルな言い方を混ぜてはいけないことに気をつけなければならない。多くの学生は敬語が難しいという。敬語を覚えることは決して難しくない。自身と聞き手との関係を判断するのもそんなに難しくはない。では、何が難しいのか。カジュアルな表現とフォーマルな表現と同じ文に混ぜて使ってはいけないというルールがある。敬語の文にカジュアルな表現が混ざらないように注意するのは難しい。たとえば、「だけど」「けれど」はカジュアルではよいことばではあるが、フォーマルに絶対混ぜられないことばである。フォーマルスタイルでは、「ですけど」もしくは「ですけれども」、「しかし」を用いなければならない。

問12 自分の言語でも、カジュアルとフォーマルのスタイルを混ぜて使ってもよいかどうかを考えなさい。

1.4 推薦するもの

書籍（日本語教科書、辞書、マンガ、雑誌）、CD、インターネット、携帯電話アプリ等、さまざまなものがある。他にも、食品のパッケージ、看板、掲示、メニュー、等を入れれば、日本語を学ぶためのリソースはいつでもそばにある。

1.4.1 参考書

文法書に頼る必要性を感じなければ、何も使わなくてもよい。文法だけを見ても使い方はわからないので、例文が多く書かれている参考書が良い。

1.4.2 インターネットのリソース

字幕付きの歌、ドラマ、ドラマシナリオが掲載されているファンサイト、これらはすべてシャドウイングに使える。字幕は、短文読解の訓練に役立つ。

1.4.3 ディクテーション: D4E

同じ文を何回も聞く練習は、自分の言語認識を確認するのに必要である。ディクテーションはその訓練に便利である。しかし、自分の書いたものが正しかったかどうか、自分で判断するのは難しい。採点結果をコンピュータシステムが表示するオンサイトアプリケーションがあれば、それは便利である。そのシステムから得られる音声は、書き取るだけでなく、声に出してシャドウイングを行うのにも便利である。

問13 D4E^{*1} を使って実際にディクテーションの練習をしてみなさい。そして練習中に気がついたことについて意見交換をしなさい。

^{*1} D4E: <https://cuckoo.js.ila.titech.ac.jp/~yamagen/d4ev5/index?proj=d4e>

第2章

まずは基礎から

日本語の基礎ははじめに全部を学ぶ必要はない。学んでもよいが、実際に使うこともせずして、覚えることは無駄に近いので、使いながら、基礎に振りかえってみるのが効果的である。この章はレファレンスぐらいに考えて、次の章の「自然な話し方」を実践しながら、この章に戻って確認するとよい。

2.1 すぐに反応する：うち、来る？

まずは、すぐに反応する練習をする。日本語の発話に慣れることが重要。基本文、3つを聞いて、3つのうちのいずれかであるかを判断し、それを番号で答える活動をする。

2.1.1 会話パターン

以下のパターンは日本の日常生活でよく使われる。

Q.. 疑問文; A.. 肯定文; N.. 否定文

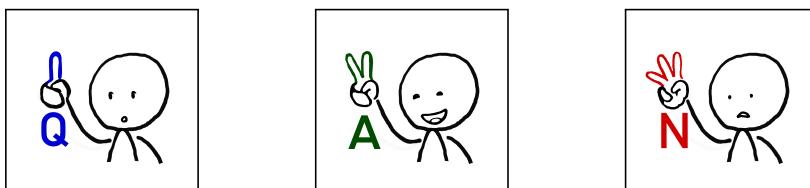


図 2.1 3 つのすぐに反応する方法

1. Q: Uchi, kuru? (Do you come to my house?)
A: Un, iku. (Yes, I will go.)

- N: Uun, ikanai. (No, I will not go.)
2. Q: Ge-mu, suru? (Do you play a game?)
A: Un, suru. (Yes, I will do.)
N: Uun, shinai. (No, I won't do.)
3. Q: Kore, taberu? (Do you eat this?)
A: Un, taberu. (Yes, I will eat it.)
N: Un, tabenai. (No, I will not eat it.)
4. Q: Kore, miru? (Do you see it?)
A: Un, miru. (Yes, I will see it.)
N: Uun, minai. (No, I will not see it.)
5. Q: Ko-hi-, nomu? (Do you drink a coffee?)
A: Un, nomu. (Yes, I will drink.)
N: Uun, nomanai. (No, I will not drink.)

2.1.2 課題

1. 指のサインを使って、インストラクターの発話にすぐに反応しなさい。
2. 上記の5つのパターンをパートナーと練習しなさい。
3. パートナーと、新しい会話を作りなさい。

2.1.3 ディスカッション

1. 短かくすぐに答えるとどんな感じがするか。
2. 英語を見て、日本語のそれぞれの単語はどんな意味かを推測しなさい。
3. 日本語の疑問文はどう作るかを考えなさい。
4. 否定文のとき、動詞の末尾にどんな音がいつもあるか、見つけなさい。
5. これらのパターンに単語を加えて、新しい文を使って会話をしてみなさい。

2.1.4 Game

3人1組になって、1人ずつ、隣の人に質問をします。質問された人は、すぐに返答しなければなりません。1番長く続けたグループが勝ちです。

2.2 動詞の基本: 私のある1日

日本語の導入としてとても重要であるが、残念なことに、この教材は、じっくりやると60分では終わらない。発話で重要な述部を担う、動詞文の全体像が大雑把に理解できればそれでよい。日本語という言語の概要を示し、この言語がシステムティックであるということを示すにはインパクトがある教材である。

2.2.1 最初の12の役立つ動詞

表 2.1 日常会話に役立つ動詞トップ12

1. suru (do III)	2. kuru (come III)	3. taberu (eat II.e)
4. miru (see II.i)	5. kiku (drink I.k)	6. yomu (read I.m)
7. nomu (drink I.m)	8. toru (take I.r)	9. kau (buy I.w)
10. iku (go I.k*)	11. mottekuru (bring III)	12. kureru (give me II.e)

重要12動詞の活用練習を通して、動詞の基本あるいは概要を学ぶ。日本語の動詞には活用があるが、すべての活用は同じ頻度で使われるわけではない動詞の全体像を眺めることが目的なので、練習ができなくても良い。

日本語の3種類の動詞があり、それぞれI, II, IIIグループと呼ばれている。動詞のグループ分けを意識すると便利であるが、辞書形が「る」で終わるIグループ動詞「切る」、IIグループ動詞「着る」の区別がきづに困るだろう。ます形で覚えたとしても、「買います」「います」のように「ます」の前が「い」になっていたら区別はできない。掛け算の九九を学ぶように、「買う → 買って」「います → いて」と頻出する動詞から使っていれば、そのうち間違えないようになるだろう。あまり覚えようと努力する必要もないはずだ。

Group III verbs: irregular verbs

IIIグループ（不規則活用動詞）から先に学ぶ。

表 2.2 III グループ動詞; 青い文字は語幹; 赤い文字は活用語尾; III グループ動詞の語幹は不規則に変化する。

	negative	polite	dictionary	conditional	volitional	potential
	-nai	-masu	-ru	-reba	-you	-rareru
to do	shinai	shimasu	suru	sureba	shiyuu	dekiyu
to come	konai	kimasu	kuru	kureba	koyou	korareru

IIIグループには、「する」「くる」の2種類の動詞しかない。活用は表2.2のようにな

化する。活用語幹が様々に変化するので、自分で文を作って、その文を実際に何度も使うのがよい。III グループの語幹とは一般的に連用形の語幹（「来ます」から「ます」を取り除いた形）を言う。「する」「しない」、「くる」「こない」のように辞書形・否定形をペアで練習する。表 2.3 に示すような簡単なやりとりで練習をすると良い。繰り返しゲームの

表 2.3 III グループ動詞の簡単な練習

日本語	英語
お金、ある？ ない！	Do you/we have money? No!
時間、ある？ ない！	Do you/we have time? No!
宿題、ある？ ない！	Do you/we have homework? No!
勉強する？ しない！	Do you study? No!
料理する？ しない！	Do you cook? No!
スポーツする？ しない！	Do you play sports? No!
明日も大学、くる？ こない！	Will you come to college tomorrow? No!
明日も研究室、くる？ こない！	Do you come to the labo tomorrow? No!

ように会話をすれば、自然に覚えられる。この場合は辞書形と否定形の学び方であるが、テ型の学び方についても同じ考え方である。動詞の種類は時間を掛けて増やしていくべき良い。それよりも動詞と一緒に使う名詞をいろいろ自分で探して使ってみることが重要である。自分の生活に即した名詞を辞書で探して、動詞といっしょに使うとよい。

「ある」「ない」もここで練習する。奇妙に思うかもしれないが、「ある」は動詞であり、「ない」はイ形容詞である。「ある」と「ない」の品詞が違うということは、言語のシステムが違うということである。「ある」の否定の形は本来は「あらぬ」「あらず」なので、「あらず」「あります」「ある」「あれば」「あろう」と活用するので、五段活用に似ている。しかし、現代語では「あらない」という使い方はなく、文語的に「あらぬ疑いをかけられた」「彼は盜人にあらず」のように使われるので一般的ではない。「ある」の否定形は形容詞の「ない」が使われる。「ある」は日本語学ではラ行変格活用と呼ばれている。

問 14 表 2.3 に倣ってクラスメートと会話練習をしてみなさい。練習後、III グループの動詞の辞書形と否定形が覚えられたかどうかを確認しなさい。

Group II: i subgroup and e subgroup

II グループ動詞には、下位分類として、母音の i が活用語尾である上一段動詞、と母音の e が活用語尾である下一段動詞の 2 種類がある。本書では、前者を II.i グループ、後者を II.e グループと呼ぶことにする。II グループも同様。「ごはん、食べる」「食べない」、「テレビ、見る」「見ない」など。「見る」「いる」「借りる」「起きる」の 4 つが II.i グループの動詞としてよく使われると考えてよい。

表 2.4 II グループ動詞; 青い文字は語幹; 赤い文字は活用語尾; II グループ動詞の語幹は変化しない。

					conditional
	negative	polite	dictionary	/potential	volitional
	-nai	-masu	-ru	-reba/reru	-you
i	to wear	kina <i>nai</i>	ki <i>masu</i>	ki <i>ru</i>	ki <i>reba/reru</i>
e	to eat	tabe <i>nai</i>	tabe <i>masu</i>	tabe <i>ru</i>	tabe <i>reba/reru</i>
					tabe <i>you</i>

問 15 つぎの II グループの動詞についてそれぞれの活用形を書いてみなさい。

表 2.5 活用表 (II グループの動詞)

					conditional
	negative	polite	dictionary	/potential	volitional
	-nai	-masu	-ru	-reba/reru	-you
to wear	ki <i>nai</i>	ki <i>masu</i>	ki <i>ru</i>	ki <i>reba/reru</i>	ki <i>you</i>
1. to live			iki <i>ru</i>		
2. to be			ir <i>u</i>		
3. to see			mi <i>ru</i>		
4. to wake up			ok <i>iru</i>		
5. to pass			sug <i>iru</i>		
6. to fall			och <i>iru</i>		
7. to get off			ori <i>ru</i>		
to eat	tabe <i>nai</i>	tabe <i>masu</i>	tabe <i>ru</i>	tabe <i>reba/reru</i>	tabe <i>you</i>
8. to change			ka <i>eru</i>		
9. to show			misi <i>ru</i>		
10. to mix			mazer <i>u</i>		
11. to throw away			sute <i>ru</i>		
12. to exit			der <i>u</i>		
13. to sleep			ner <i>u</i>		
14. to put into			irer <i>u</i>		

I グループ: あいうえお活用

I グループの動詞の活用は日本語の 50 音図表に沿って学ぶと良い（表 2.6）。①の動詞の例として、「書く」を考えてみる。

「書く」は I グループの動詞で、辞書形である。I グループの活用は、-nai, -masu, -, -ba/ru, -u の順で活用語尾が付く。それぞれ、否定形、連用形、辞書形、条件形/可能形、意向形と呼ばれている。II グループ動詞は、i あるいは e で語幹は変化しないが、I グループ動詞は語幹が aieuo と変化する。仕組みを考えて実践するのが重要である。

表 2.6 活用表 (I グループの動詞)

⑨ ⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①			suffix	form name
w	r	y	m	b	n	t	s	g	k		
わら	や	まば	なた	さ	が	か	a	-nai		negative	
いり	み	び	に	ち	し	ぎ	i	-masu		polite/masu	
うる	ゆ	む	ぶ	ぬ	つ	すぐ	u.			dictionary	
えれ	め	べ	ね	て	せ	げ	e	-ba,-ru		conditional, potential	
おろ	よ	も	ぼ	の	と	そ	ご	c	-u		volitional

活用表は多くの日本語既習者にとってはかなり体系的・システムティックなものであると感ずるようだ。50音図に動詞活用の仕組みが含まれているのに気づいて、なぜもっと早くこのシステムを提示してくれなかつたのかと教師に訴える学生もいる。

I グループも II グループと同様に肯定形・否定形で練習するとよい。たとえば、「大学、行く」「行かない」、「おふろ、入る」「入らない」など。

2.2.2 テ形の作り方

表 2.7 テ形の作り方

⑨ ⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①			suffix	form name
w	r	y	m	b	n	t	s	g	k		
わら	や	まば	なた	さ	が	か	a	-nai		negative	
いり	み	び	に	ち	し	ぎ	i	-masu		polite/masu	
うる	ゆ	む	ぶ	ぬ	つ	すぐ	u.			dictionary	
えれ	め	べ	ね	て	せ	げ	e	-ba,-ru		conditional, potential	
おろ	よ	も	ぼ	の	と	そ	ご	c	-u		volitional
										-te	
										-de	

日本語の動詞の活用には、テ形という他の言語では、接続形と見做される特別な形があり、その形はストラテジックである。テ形は、たった1つの形で過去も現在も未来も言い表せられる。テ形の作り方は、表 2.7 の下2行を見ると良い。テ形の活用語尾は語幹の母音により「て」あるいは「で」で終わる。「行く」が「行って」になる以外、規則に例外はない。表 2.7 に I グループ動詞のテ形の作り方を示した。テ形をどう作るかはこの表ですべてが表現されている。テ形の作り方を強制的に覚える必要はない。なぜ、テ形の発音が表のようになったかを考えたほうが良い。テ形は日本語の言語学では、音便形と呼ばれている。テ形のもともとの形は、連用形にテが接続したものである。すなわち、「聞きます」の「ます」をとって、「聞き」に「て」が付いた「聞きて」がもともとの形である。これは、「聞きて」を何回も速く言うのは、言いにくいので、「聞いて」と音が変化したものである。実際に、「聞きて」と「聞いて」を交互に発音してみると、「聞いて」の方が発音し

やすいことがわかるだろう。究極的には、テ形の作り方には8つしかない。辞書形では、3Gは、①「くる」「きて」、②「する」「して」、2Gは、動詞の末尾のひらがなに注目し、③「る」を「て」、1Gは、動詞の末尾のひらがなが④「うつる」のときは「って」、⑤「ぬぶむ」のときは「んで」、⑥「くぐ」のときは「いて、いで」、⑦「す」のときは「して」にする。ただし、⑧動詞「行く」のときは例外的に「行って」になる。

問16 12の頻出動詞をテ形に変換しなさい。

- | | | | |
|------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|
| 1. suru (do) | 2. kuru (come) | 3. taberu (eat) | 4. miru (see) |
| 5. kiku (listen) | 6. yomu (read) | 7. nomu (drink) | 8. toru (take) |
| 9. kau (buy) | 10. iku (go) ⇒ itte | 11. mottekuru (bring) | 12. kureru (give me) |

問17 つぎの動詞についても、「連用形+て」と「て形」の両方を発音してみて、どちらの方が言いやすいか比べてみなさい。「行く」についても、「行って」「行いて」「行って」のどれが言いやすいか、比べてみなさい。さらに、「行く」のテ形と、「言う」、「生きる(II.i)」のテ形とも比較しなさい。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 泳ぐ ⇒ | 2. 話す ⇒ | 3. 立つ ⇒ |
| 4. 遊ぶ ⇒ | 5. 読む ⇒ | 6. 取る ⇒ |
| 7. 買う ⇒ | 8. 行く ⇒ | |

「歌って飲んで食べて笑って」など動詞の並列もできる。何を言ってよいかわからなくて、自分の発言にあまり自信がない時、まず、動詞のテ形で言っておけば、会話相手のネイティブスピーカーが代わりに言ってくれるかもしれない。ある学生にとっては不思議に思うかもしれない。

問18 あなたの昨日行ったことを動詞3つを使って、例のようにテ形で言いなさい。その際、文の最後に「でした」をつけなさい。

例: 昨日、図書館、行って、本、探して、勉強して、…でした。

問19 テ形の作り方を他の学生に説明しなさい。そして、誰の説明が最も簡単で最もわかりやすいかを話し合いなさい。

2.2.3 ディスカッション

学習中の言語に関する印象は個人によって異なる。いっしょに学んでいる人と学習過程について話しあうのは意義がある。自分が今、学んでいる単語が難しいのか、易しいのか、それは話すのに難しいのか、易しいのか、聞くのに難しいのか、易しいのか、など。

問20 会話の練習でどんな動詞がもっと必要だと思いましたか。

問21 今日練習した表現をどこで使ってみたいですか。

どんな単語をもっと覚えたらいかは、よく学生から教師に尋ねられる質問である。答えは、自分が言いたいと思った単語から覚えれば良い、である。具体的にどの単語が言いたいかは、教師にはわからないので、クラスメートに聞いてみることが、よい勉強方法である。つぎに学んだ単語を使うチャンスを常に考えることが上達の秘訣である。言語が上手になる最低条件は使うこと。

2.3 持っている/要る

動詞の中でもいくつか使い方に注意する動詞がある。ここで取り扱う「持つ」「要る」と「自然な話し方」の章で取り扱う「ある」「知る」の4つの動詞がそれである。「持っている」「要る」は生活上すぐさま必要となる動詞である。「持つ」よりも「持っている」の形で使われることの方が多い。同様に「知る」は「知っている」という動詞で使われることの方が多い。ところが、「持っている」の否定形は「持っていない」だが、「知る」の否定形は「知らない」である。「持っている」の否定形は正しくは「持っていない」であるが、母語話者の中には「お金持っている？」の答えとして「持たない」と答える人もいる。このような例は他にもある。たとえば、「この映画、見た？」「ううん、見ない」がある。

“need”に対応する話しことばは「必要」ではなく「要る」である。「要る」は“want”的意味もあり、音節の少ない便利な単語である。「要る」は、「要る」「要らない」の形で普通に使われるが、「要っている」という使い方はほとんどない。動詞の出現頻度は、活用形によって大きく異なる。また、動詞の意味や使い方は活用形にしたがって、変わるので、辞書形の意味だけを考えるのではなく、使われた時の形で覚えて、使ってみることが重要である。

2.3.1 とりあえず簡単な会話のモデルから学ぼう

わずか2語の質問：これ、持ってる？ これ、いる？ 今ここで使う動詞の形は、「持てる」「持っていない」「いる」「要らない」だけである。あまり複雑な動詞の活用形に神経

を使うよりも、そのような単語を使うとだけ考えればよい。このような言語の形を考えなくて良い会話練習を多くすべきである。ここで必要なのは、この文でいっしょに使う名詞を多く知っていることである。文法よりも内容を重視した活動を行うようにすることである。コミュニケーションは当然、内容が重要である。有意義なコミュニケーションを行うには、文法に注意を向けなくてもよいように、シンプルにしておく。

問 22 「持ってる」と「要る」と共に使える名詞をそれぞれできるだけ多く書き出しなさい。

言語が話せる能力とは準備しない時の会話能力である。もし、準備というものがあるなら、それは言語の準備ではなく、話すべきことに関する知識あるいは内容をあらかじめ知るという準備である。ゆえに、文化に応じた名詞を学ぶことが重要なのである。

2.3.2 タスク

まず、自分のいらないものの名前を書き出す。つぎに、友だちに、それが要るかどうかを聞いてみる。

問 23 ほしいものを日本語でも英語でもよいので、名詞で書き出しなさい。

2.3.3 活動

自分がいらないものがいるかどうか、クラスメートに聞く。

問 24 次の例のように、いろいろな名詞を使ってクラスメートと会話しなさい。そして、誰が何が要るか、何が要らないかメモしなさい。

あなた: 鈴木さん、自転車、持ってる？

Suzuki san, do you have a bicycle?

鈴木: うん、持ってる。

Yes, I do. I don't need it.

あなた: 田中さん、自転車、持ってる？

Tanaka san, do you have a bicycle?

田中: ううん、持ってない。

No, I don't.

あなた: いる？

Do you want to have it?/Need it?.

田中: うん、いる！ほしい。

Yes, I need it! I want it.

2.3.4 ディスカッション

問 25 日常生活で必要なものは何か。

問 26 練習していてもっと知りたいと思った単語や表現は何か。

答 26 「要る」も「持っている」も簡単な文の構造であるので、文法に注意して話すこと はあまりない。単純に名詞と動詞の2つの単語を順番に話せばよいだけである。む しろ、準備として日頃から必要なものと不要なものを考えておくことが速やかに会 話をすすめることができるだろう。

2.4 動詞否定形

辞書形と否定形を同時に覚えるには利点がある。日本語の否定形は、基本形に何かを付 ければ、否定形になるのではない。だから、否定形を覚えなければならない。はじめに、 否定形を覚えていれば、その動詞がどのグループの動詞なのかがわかる。したがって、辞 書形だけでなく否定形も同時に覚えるのが良い。「ない」の前が a 段であれば、I グルー プ、それ以外なら II か III グループだが、III グループは「くる」「する」しかないので、 残りは II グループであることは容易にわかる。実際の会話中に動詞を活用させて即答す るのはほとんど不可能なので、それぞれの活用形を単語として覚えておくのが現実的で ある。

問 27 知っている日本語の動詞を辞書形と否定形のペアで発音しなさい。

2.5 イ形容詞・ナ形容詞

2.5.1 基本

感情、評価、感想を発話するのに必須。イ形容詞は、感情や味覚、触覚、気温などの感 覚を伝えるのに役に立つ。ナ形容詞は、評価や評判を伝えるのによく使われる。和語はイ 形容詞、漢語や外来語はナ形容詞であるが、新しい語がイ形容詞として生まれることも ある。

A: どう？

B: おもしろい・うれしい・きれい・しづか（などなど）

好みや感想はもっとも簡単に自分の考えが述べられる形式。初日から、上記のような会 話はできる。「あいさつ」はとても重要な会話であるが、残念ながら何回も使えないし、何 回もすると奇妙である。形容詞のリストを見ながら、何回もやり取りすると話した感があ る。この練習も停滞しないようスピードをつけて、ゲーム感覚でやるとよい。

問 28 次の英語の形容詞を日本語のイ形容詞、ナ形容詞で言いなさい。

- | | | | | |
|---------------|----------------|-------------|-------------|----------------|
| 1. big | 2. small | 3. hot | 4. cold | 5. long |
| 6. short | 7. delicious | 8. fast | 9. slow | 10. famous |
| 11. beautiful | 12. convenient | 13. fun | 14. far | 15. strong |
| 16. happy | 17. noisy | 18. safety | 19. complex | 20. convenient |
| 21. fine | 22. easy | 23. good at | 24. dislike | 25. weak |
| 26. gorgeous | 27. simple | 28. kind | 29. quiet | 30. love, like |

答 28 つぎの単語を使う。基本的に、語尾が i で終わる単語は、イ形容詞である。しかし、 i で終わる単語でも、ナ形容詞があるので、注意が必要である。つぎのリストでは、ナ形容詞には語尾に /na をつけておいた。

- | | | | |
|-----------------|----------------|-------------------|-------------------|
| 1. ookii | 2. chiisai | 3. atsui | 4. tsumetai |
| 5. nagai | 6. mijikai | 7. oishii | 8. hayai |
| 9. osoi | 10. yuumei /na | 11. utsukushii | 12. chikai |
| 13. tanoshii | 14. tooi | 15. tsuyoi | 16. shiawase /na |
| 17. urusai | 18. anzen /na | 19. fukuzatsu /na | 20. benri /na |
| 21. yoi | 22. kantan /na | 23. jouzu /na | 24. kirai /na |
| 25. yowai | 26. rippa /na | 27. kantan /na | 28. shinsetsu /na |
| 29. shizuka /na | 30. suki /na | | |

2.5.2 否定形

イ形容詞の否定形は、語尾の「い」を「くない」に置き換える、ナ形容詞は、語尾に「で
はない/じゃない」を付ける。

問 29 上のイ形容詞、ナ形容詞を否定形にしなさい。

答 29 上に述べたルール通りに変換すれば良い。ただし、「i」で終わる単語は必ずしもイ形容詞ではないので注意が必要である。

- | | | | |
|----------|------------|----------------|-----------|
| 1. 大きくない | 2. 小さくない | 3. あつくない | 4. つめたくない |
| 5. nagai | 6. mijikai | 7. oishii | 8. hayai |
| 9. osoi | 10. yuumei | 11. utsukushii | 12. benri |

- | | | | |
|----------------|---------------|------------------|------------------|
| 13. tanoshii | 14. tooi | 15. tsuyoi | 16. shiawase/na |
| 17. urusai | 18. anzen/na | 19. fukuzatsu/na | 20. benri/na |
| 21. yoi | 22. kantan/na | 23. jouzu/na | 24. kirai/na |
| 25. yowai | 26. rippa/na | 27. kantan/na | 28. shinsetsu/na |
| 29. shizuka/na | 30. suki/na | | |

2.5.3 過去形

イ形容詞の過去形は、語尾の「い」を「かった」に置き換える、ナ形容詞は、語尾に「だった」を付ける。

問30 上記のイ形容詞、ナ形容詞を過去形に変換しなさい。

2.6 自然な助詞の使い方

助詞「に、で、を」の自然な助詞の使い方。それらは到着点の「に」、手段あるいは動作場所の「で」、出発点の「を」である。

また、動詞を使わない自然な助詞の使い方も示す。「図書館で勉強」、「イギリスに留学」、「東京を出発」など「名詞+助詞+名詞」の形で使える。いずれも動作を表す名詞が後ろに置かれる。

図2.2、図2.3に「に」「で」「を」の使い方を示す。両方の図を見ると、3つの助詞の持つ概念がわかるだろう。「に」は到着点、「で」は行為の場所、「を」は出発点を示している。バスの場合は、「移動」という行為の場所が乗り物である。結果的に両方の図は同じ助詞の概念を表している。注意しなければならないことは、これら3つの助詞を使うときは、いずれも行為を表す動詞を使うときである。たとえば、「に」には、「ここにあります」のような存在を示すものや、「春になります」のような結果を示すものもある。これらの「に」は到着点という意味はない。会話では、できるだけ助詞を省略するのが良いとされているが、意味を区別したいときは助詞を明示的に使った方がよい。行為を表す動詞のときは、文中でいっしょに使われる場所を示す名詞と動詞との関係を明示しなければならないため、助詞を省略することができない。助詞を明示しないと意味がわかりにくくなるとき、助詞は省略できない。

問31 行為を表す動詞と名詞の関係を示す助詞を書きなさい。

1. library a. 図書館_____行く

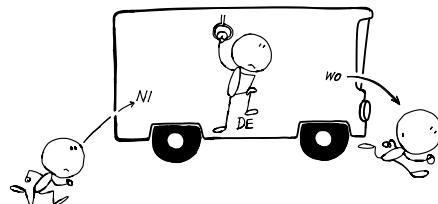


図 2.2 Japanese particles which have a vehicle formation

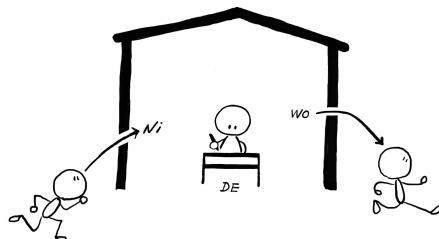


図 2.3 Japanese particles which have a location/place formation

- b. 図書館 ____ 勉強する
2. bus
- バス ____ 行く
 - バス ____ 降りる
3. McDonald
- マクドナルド ____ 友達 ____ ランチする
 - マクドナルド ____ ビッグマック ____ 買う
4. home
- 自宅 ____ 午前 8 時 ____ 出る
 - 自宅 ____ 午後 7 時 ____ 帰る
5. bicycle
- 自転車 ____ 大学 ____ 行く
 - 自転車 ____ 降りて歩く

問 32 助詞のタスクシートを使って、ペアあるいはグループで練習しなさい。

- Particle 1: T51Particle01.pdf
- Particle 2: T51Particle02.pdf
- Particle 3: T51Particle03.pdf

もう気づいたかもしれないが、これらの助詞を効果的に用いると、文末の動詞を言わなくて意味を伝達することができる。また、そのような省略された表現は、最も必要なことだけを述べるので、コミュニケーションとして非常に自然である。

第3章

自然に話すこと: Part 1

この章で扱う内容は非常に重要である。短かい文でも、外国語で意思疎通が可能であることがわかるだろう。このような短い文章は覚えやすいだけでなく、リズムがいいので、インタラクションを継続させやすい利点がある。

3.1 3語で質問

「最近どこ行った」という表現で、旅行・訪問のトピックが始まられます。これは、たった3語で表現できる簡単な質問である。これは実に便利な表現である。あなたはリラックスして、優しい気持ちになって、自然に話してみてください。できるだけ、短く、助詞を使わない文を、一息でいうと、自然な会話になる。具体的な地名は、あなたが知っている語を使えばよい。地名は会話を具体的にするため、とても通じやすい表現になる。

単純に地名だけを速やかに返答する。できるだけ早く、地名だけを返答する。学生は「です・ます」をつけないと失礼ではないかと質問するが、自分の行動を丁寧に表現する必要はないので、丁寧に返答するより、即座に相手の求める答えをする方がコミュニケーションとして適切だ。

3.1.1 モデル

問33 モデルにしたがって、できるだけ自然に自由に話すには、どんな準備が必要かを考えてください。

A: 最近どこ行った?

B: 渋谷 (地名) 行った!

答 33 自然に話すためには、相手に聞かれたら、速やかに答えることです。速やかに答えるためには、具体的な物事を用意しておくことが必要です。このモデルの場合、具体的用意できるのは、地名です。あなたは、とっさにいくつ日本の地名が言えますか。文型や表現は自動的に口から出てくるまで、待たなければなりません。しかし、地名や物の名前などは、あらかじめ準備しておけば、すぐ使えます。自然に話すための準備とは、具体的な名詞を多く学ぶこと、すなわち文化を学ぶことです。

3.1.2 タスク

問 34 行きたいところの地名を書きなさい。行きたいところがなくても知っている地名を少なくとも 5 つ書きなさい。

0. Shibuya _____
1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

答 34 文型を準備するよりも、固有名詞を準備したほうが良い。準備することは、意識的に地名をあらかじめ書き出しておくことである。聞き取りに役立つはず。聞いてわからないのは、その語を知らない場合で、特に固有名詞を知らない場合である。固有名詞を知らないということは、その言語の話されている地域の文化を知らないということである。言語を使うためには、文化の学習が不可欠である。

問 35 好きなイ形容詞を 5 つ選びなさい。そして、そのイ形容詞の現在形と過去形を書きなさい。

0. omoshiroi → omoshirokatta
1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

N.1 イ形容詞からイ形容詞の過去形を作るには、次のようにする。おもしろい → おもしろ-かった)

答 35 自分の知っている語をまず選び、その語の過去形を作ってみること。あまり馴染みのない語で練習しないこと。自分の好きな語を選ぶこと、その語から学習し、その語から使ってみることが重要である。

活用形は自然に話すための最も重要な文法項目の1つである。なぜならば、活用形は言い間違いのできない語句の一つだからである。句をどの順番で話してもよいが、句の中の要素を自由に入れ替えて話してはいけない。句の中の要素を入れ替えて話すということは、違う語を話すのと同じことである。しかし、恐れることはまったくない。句はちょっと長めの名詞だと見做して、そのまま話せばよい。自分で考えて作って話すより簡単なはずである。

3.1.3 アクティビティ

問 36 次の会話のパターンを使って、最近、行ったところについてクラスメートに聞きなさい。クラスメートが答えた場所と感想をメモしなさい。

A: a. Suzuki san, saikin doko itta?

B: b. Shibuya itta.

A: Dō datta? (How was it?)

B: c. Omoshiro-katta (It was fun).

A: Sō, yokatta desune. (That's great!)

B: Eē, hontoni. (Yes, it really was!)

0 a. Suzuki san b. Shibuya c. omoshiro-katta.

1 a. _____ b. _____ c. _____.

2 a. _____ b. _____ c. _____.

3 a. _____ b. _____ c. _____.

4 a. _____ b. _____ c. _____.

5 a. _____ b. _____ c. _____.

答 36 メモした地名をすべて知っていたらどうか。おそらく知らない地名もあったはずだ。もし知らない地名を聞いたら、「それ、どこ」と質問しよう。会話の内容がわからなくなったら、途中から英語を使ってよい。内容のやり取りを大切にすることがコミュニケーションとして重要だ。

3.1.4 ディスカッション

問 37 自然に話している時どんな気分か。

答 37 相手の反応、すなわち、表情や目線が必要だと思ったかもしれない。相手の反応が確認できたら、自信が生まれてきたかもしれない。自信が生まれたら、自然とリラックスできただろう。次に何を言うかを考える時間や余裕も生まれてきただろう。

問 38 自然な話し方のポイントは何か。

答 38 正確に話そうと考えるあまり、長く話したり、ゆっくり話したり、返答が遅れたりすることは経験ないだろうか。自然な話し方をするには、まったくその逆を実践すればよい。正確に話ようとせず、思ったまま話す。思った順に話す。できるだけ短かく話す。聞かれたら、すぐに返答する。こうすることで、あなたは無意識に重要なことから先に発話することになる。重要なことを先に話すことが重要である。

問 39 もっとうまく話すためにどんな技術や語を付け加えたらよいか。

答 39 もう少し上手に話したいと思うのは普通である。直感的に自分が言いたいと思った単語を1つだけ使ってみること。急にたくさんのこと覚えるのではなく、1つだけ覚えるのがポイントである。

3.2 何かはじめた？

Natural Speaking 2では、「最近、何か始めた?」「柔道始めた」「上手になった」「いいえ、まだまだ」などの表現を示す。話を始めるのは思っているほど簡単なことではない。特に新しい人間関係では、相手のことをほとんど知らない。どんなトピックから話を始めればよいのだろうか。かつては、家族のこと、仕事のことも気軽に尋ねることもできたが、最近はプライバシーに関わることなので、適切なトピックではないかもしれない。無難なトピックとして、最近始めた趣味があるかどうか尋ねるのはよいかもしれない。

もし、最近始めたことがなくても、何か趣味としてやっていることを答えるのがよいアイデアだろう。そのときは、「柔道、やっている」のように何かすでにやり始めていることを言うとよいだろう。上手であったとしても、最初はあまり上手ではないと答えるといい。自慢をはじめからしない。仲良くなつてから、上手であることを見せるのがよい。はじめは「いえいえ」といって謙遜したほうが良い。しかし、「やってみて」と言われたら、わざと下手にする必要はない。

3.2.1 モデル

問 40 自分の母語でモデルに似た場面や会話を見たり、聞いたり、話したりした経験があるか。あればその経験を共有しなさい。

A: 最近、何か、始めた？ スポーツとか、趣味とか、なんとか…

B: A はじめた！

A: どう？

B: いいえ、まだまだ。

N.2 何か (something) と何が (what is)

答 40 あなたの母語においても同様の経験はあるだろう。その経験を思い出して、相手からどんな答や反応があるだろうかを想像しなさい。あなた自身が持っているかつての経験を思い出すことができれば、少し緊張がほぐれて話しやすくなるだろう。冒頭で、「新しく」「最近」「コロナになって」などの語句を明示的に使っても良い。「新しく」はイ形容詞「新しい」の副詞形で、語尾の「い」を「く」に置きえたもの。

3.2.2 タスク

問 41 趣味、スポーツ、勉強、習慣など、始めたことをメモしなさい。

答 41 名詞を準備しておくことで発話しやすくなる。いくつか例を挙げる。

例) 料理、サッカー、ギター、ジョギング、ヨガ、習字、柔道、剣道、茶道、など。

問 42 「上手になった」というのはどういう意味か、考えよ。

答 42 「上手になった」という表現の中の「なる」は変化を表わす。「上手」はナ形容詞であり、変化を表わす動詞「なる」と接続するときには、「上手に」のように「に」を付ける。

3.2.3 アクティビティ

問 43 何をはじめたかをクラスメートに聞く場面である。次のモデルにしたがって、できるだけ自然に自由に話しなさい。あなたが聞き手のときは、例にならってメモを取

りなさい。

A: a. Yamamoto san, nani ka hajimeta? supo-tsuta, shumi toka, nanika...

B: b. furansugo.

A: Jōzu ni natta? (Did you do it well?/Has it become good?)

B: c. iie, madamada. / ee, mā / ee, māmā. (No, not yet!/So so..)

- | | | |
|---------------------------|---------------------|-------------------------|
| 0. a. <u>Yamamoto san</u> | b. <u>furansugo</u> | c. <u>iie, madamada</u> |
| 1. a. _____ | b. _____ | c. _____ |
| 2. a. _____ | b. _____ | c. _____ |
| 3. a. _____ | b. _____ | c. _____ |
| 4. a. _____ | b. _____ | c. _____ |
| 5. a. _____ | b. _____ | c. _____ |

答 43 フランス語、ドイツ語、中国語のように語学でもよいし、趣味や研究や新たな習慣でもよい。

3.2.4 ディスカッション

問 44 モデル以外に話を始めるのに便利なトピックを議論しなさい。

答 44 話を始めるトピックは思ったより見つからない。常日頃から会話開始にふさわしいトピックを考えておくこと、そのトピックに関連する語を調べておくとよい。一方、聞き取りも何が言われるかわからないので、やはりこれも難しい。だから、自分から発話して、相手に質問してもらえば、あらかじめ準備していたことを話すことができる。

3.2.5 補足練習

問 45 まだできないことをメモしなさい。

答 45 日本語、水泳、車の運転、漢字、ピアノなど、できないことはいろいろあるだろう。

問 46 名詞 + 「できる」、名詞 + 「できない」を使って、できることとできないことを述べてみよう。

答 46 質問するときは、「料理、できる？」と聞けばよい。答えるときは、「できる」あるいは「できない」とだけ言えばよい。料理、運転、水泳、暗算、縄跳び、けん玉、ジャグリングなど名詞 + できる/できない、で表現できる語を多く知っておくと役に立つだろう。いろいろできる、何にもできない、よくできる、ぜんぜんできない、まあまあできる、少しできる、など、できる程度の言い方を覚えておくと便利である。

3.3 「ある」は「持っている」の意味

3.3.1 モデル

問 47 次のモデルにある「ある」はどんな意味であるかを考えなさい。

A: ima jikan **aru**? (Do you have time now?)

B: un. nani? (Yes, what?)

A: pen **aru**? (Do you have a pen?)

B: aa, **aruyo**. (Yap! I do!)

A: kyō kurasu **arimasu** ka? (Do you have a class today?)

B: iie, **arimasen**. (No, I don't)

N.3 「あります」：「ある」の連用形「あり」に丁寧の助動詞「ます」が付いた形。フォーマルな表現である。

N.4 「ありません」：「ある」の連用形「あり」に丁寧の助動詞「ます」の否定形「ません」が付いた形。これもフォーマルな表現である。しかし、強く発音すると冷たい印象を与えるので、「いいえ」とだけ、返答するのがよい。

答 47 「ある」は字義的な意味として「存在する」という意味以外に文脈的な意味として「持っている」という意味もある。会話では「持っている？」と尋ねるよりも「ある？」と聞くほうが簡単である。

3.3.2 アクティビティ

問 48 パートナーにどんなものを持っているかをいろいろ聞いて、メモを取りなさい。

A: Suzuki san, keitai aru? (Mr. Suzuki, do you have a mobile phone?)

B: un, **aruyo.** / uun, nai. (Yes, I do; No, I don't)

0. _____

Suzuki san has a mobile phone, keitai

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

答 48 所持品は比較的覚えやすい単語であるか、簡易化されて短かく表わさせたもの、商品名のような固有名詞などが多い。しかし、あらかじめ準備しておかないとすぐに口から出てこない。頭で覚えるだけでなく、実際に会話のパートナーと練習を通して発話すると覚えるつもりがあまりなくとも自然に覚えられると思う。

3.3.3 ディスカッション

問 49 「ある」にはどんな意味があるか。

答 49 「ある」の基本的に「存在する」という意味があるが、そこから転じて、「所持する」という意味もある。ある動詞の基本的な意味が、どのように使われるかを教科書で学ぶことは難しいので、実際にことばを使ってみて理解する必要がある。このように意味を考える学問分野を意味論といい、使い方を考える学問分野を語用論という。

問 50 この表現は、いつ、どんなときに使えばよいか。

答 50 たとえば、お金や必要なものを借りたいとき「お金、ある?」、ちょっと誰かを話をしたいとき「ねえ、ちょっと、時間、ある?」、何かのついでに誰かのために買い物をしてきてあげようとするとき「買い物、ある?」のように使える。

3.4 「知っている?」「知らない」

人が何かを尋ねる場面は日常生活では頻繁に見られることだろう。人に何かを知っているかどうかを聞くときには「知っている?」と聞けばよいが、その否定形は「知らない」であって「知っていない」ではない。ここでは、「~ている」の使い方は学ばない。

3.4.1 モデル

問 51 次のモデルにしたがって、できるだけ自然に自由に話しなさい。

A: Pikachū **shitte(i)ru?** (Do you know picachū?)

B: Un, **shitte(i)ru.** (Yes, I do)

A: Jā, Godzilla wa? (How about Godzilla?)

B: Uun, **shiranai.** (No, I don't)

A: Sensei, Godzilla **gozonji** desuka?

(Professor! Do you know Godzilla?)

C: Mochiron, **shitte(i)masuyo.** (Of course, I do)



Hilofumi Yamamoto

N.5 知る → 知っている / 「知る」という形(辞書形)はあまり使われない。続いている状態を表わす「～ている」の形が使われる。早く発音すると「い」が省略される。

N.6 知らない: 「知っている」の否定形。「知っていない」の形はあまり使われない。

N.7 ござんじ: 「知っている」の尊敬形

答 51 「知る」という動詞は、会話では多く「知っている」の形で使われる。しかし、その否定形は「知っていない」ではなく「知らない」の形で使われる。多くの学生が「知っていない」と答えて間違える。また、「ござんじ」は「知っている」の敬語表現だが、「～ている」に相当する形はない。

自分の知っている歌手や俳優、自分の国の有名人、有名な芸術家、スポーツ選手などの固有名詞を使って、会話をしてみよう。否定形で答えるときに、「知っていない」と言わないように注意すること。

3.4.2 タスク

問 52 上のモデルのアンダーラインの部分に使えそうな語を考えてメモしなさい。

答 52 マンガやアニメのタイトルでもキャラクターでもよい。世界的に有名な芸術家、俳優、歌手の名前、観光地、都市など、さまざまな固有名詞をあらかじめ準備しておいて、会話をしてみるとよい。

3.4.3 アクティビティ

問 53 何か知っているようなものを相手に質問して、メモをとりなさい。

0. I asked **Suzuki** san if he knows **Godzilla** or not: iie, **shiranai** / hai, **shitteiru**
1. _____
 2. _____
 3. _____
 4. _____
 5. _____

答 53 ノートは日本語でも英語でもどちらで書いてもかまわない。会話の相手がどんな名詞を使ったかをよく聞いてください。人の名前や固有名詞は聞き取るのが難しい。実際にその人物や名詞を知らなければ、聞き取るのが難しいことがわかるはずだ。英語を使ってもよいので、その人物や名詞がどういうものなのかを尋ねてみよう。

3.5 感想・印象・感情を話す

フォーマル・スタイル、カジュアル・スタイル、男性言葉、女性言葉、感情や独り言を学ぶ。

3.5.1 モデル

問 54 カジュアル・スタイルとフォーマル・スタイルをそれぞれ読み、どんな違いがあるか、話し合いなさい。男ことばと女ことばはそれぞれどんな感じがするか、意見を交換しなさい。

Casual: (yokatta/umi ni/itta)

A: Aa **yokatta!** (That was good!)

B: Nani ga? (What was good?)

A: **Umi ni itta** n da (male)/no (female).

B: Sou! **sore wa ii** ne. (Really! It sounds good)

Formal: (yokatta/umi ni/itta n desu)

A: Aa yokatta! (That was good!)

B: Nani ga desuka? (What was good?)

A: Umi ni itta n desu.(I went to sea.)

B: Soudesuka! sore wa ii desune. (Really! It sounds good)

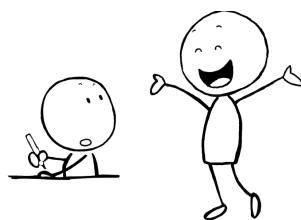


図 3.1 ああ、よかった！

3.5.2 タスク

問 55 イ形容詞を過去形と丁寧語で書く。

0. ii/yoi → yokatta → yokatta desune
1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

答 55 イ形容詞の過去形の作り方は、語尾の「い」を取り除いて、「かった」を付ける。ただし、「いい」の場合は「いい」ではなく「よい」の「い」を取り除いて、「かった」を付ける。イ形容詞の丁寧形として「いいです」「よかったです」のように「です」をそのまま付ける教科書も見られるが、少し幼稚と感じる人もいるので、避けた方がよい。どうしても「です」を付けた表現を使いたい場合には、「いいですよ」「いいですね」「よかったです」のように終助詞を付けると自然になる。しかし、「ね」を付けるか、「よ」を付けるかを考えなければならないし、そもそも何も付けなくてよいときに、何かを付けることは面倒である。

問 56 「よかったこと」「うれしかったこと」など、自分が伝えたいこと、経験、言及したいイベントを書きなさい。

0. umi ni itta _____
1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

N.8 過去の出来事を動詞で言うときは、動詞の時制を過去にします。動詞の過去形の作り方は、「て」を「た」に置き換える点以外は動詞のテ形の作り方と同じである。

答 56 旅行に行った、カラオケに行った、ディズニーランドに行った、沖縄に行った、などイベントでもよいし、友達とレストランに行った、買い物に行ったのような日常生活で行なうことでもよい。

3.5.3 アクティビティ

問 57 カジュアルなスタイルとフォーマルなスタイルの両方で、クラスメートに聞いてみよ。

A: a. Aa, yokatta.

B: b. Suzuki san, nani ga yokatta no?

A: c. Umi ni itta n desu.

B: Sou, sore wa ii ne.

- | | | | |
|----------------------|------------------|-----------------------|---|
| 0. a. <u>Yokatta</u> | b. <u>Suzuki</u> | c. <u>umi ni itta</u> | . |
| 1. a. _____ | b. _____ | c. _____ | . |
| 2. a. _____ | b. _____ | c. _____ | . |
| 3. a. _____ | b. _____ | c. _____ | . |
| 4. a. _____ | b. _____ | c. _____ | . |
| 5. a. _____ | b. _____ | c. _____ | . |

答 57 「よかった」以外に、「おもしろかった」「楽しかった」「難しかった」「おいしかった」「びっくりした」など使えるだろう。

3.5.4 ディスカッション

問 58 自然に話していた時の気持ちはどうか。

答 58 相手からどんな返答が返ってくるかわからないのに、多少、以前よりリラックスして話せただろう。

問 59 自然な話し方のポイントは？

答 59 少しずつかもしれないが、言語の形よりも話している内容の方が重要だということに気づいていただろう。言語の形式は短かく話せば、難しくないと感じ始めているだろう。

問 60 スピーチを上達させるには、どんなテクニックや表現を加えればよいか。

答 60 「ああ、よかった」「ああ、うれしい」などのように「感情・印象・感想」を発話することは生活の中で多い。誰かに気持ちを直接伝える言い方をインターネットで見つけて自分で覚えて使ってみるのは良いことである。

第4章

自然に話すこと: Part 2

カジュアルとフォーマルスタイル。「まだ」と「もう」日本語の助動詞「た」は過去を示すだけでなく、完了も示せる。否定は「まだ～ていない」ではあるが、実際には「～ない」と言っても良い。誘いと反応、電話やメールなどで相手が今何をしているかを聞く表現を学ぶ。

4.1 もう・まだ・過去形・完了形

「まだ」と「もう」日本語の助動詞「た」は過去を示すだけでなく、完了も示せる。否定は「まだ～ていない」ではあるが、実際には「～ない」と言っても良い。

4.1.1 モデル

問 61 なるべく自然に、自由に話す。次の3語以内の表現を使う。「ねえ、もう、食べた」

Casual:

- A: Nee, mou tabeta? (Have you already eaten?)
- B: Un, tabeta. (Yes, I have) / Un, mada. (No, I haven't yet)
- A: Nee, mou itta? (Have you already been there?)
- B: Un, itta. (Yes, I have) / Un, mada. (No, I haven't)

Formal:

- A: Suzuki san, mō tabemashita?
- B: Ee, tabemashita. / Iie, mada.
- A: Nee, mou ikimashita?
- B: Ee, ikimashita. / Iie, mada.

4.1.2 タスク

問 62 動詞を過去形に変換し、過去形のフォーマルなスタイルにしなさい。

0. **taberu (eat)** → **tabeta** → **tabemasu** → **tabemashita** _____
1. miru (see) → _____
2. yomu (read) → _____
3. kaku (write) → _____
4. tsukuru (make) → _____
5. iku (go) → _____
6. suru (do) → _____
7. kuru (come) → _____

答 62 「見る」は II グループの動詞なので、「見た、見ました」。「読む」は I グループの「む」が辞書形の動詞なので、「読んだ、読みました」。「書く」は I グループの「く」が辞書形の動詞なので、「書いた、書きました」。「作る」は I グループの「る」が辞書形の動詞なので、「作った、作りました」。ただし、「る」で終わる動詞は II グループにもあるので、未然形が「あ行」になるかどうかを確かめる必要がある。「作る」は未然形が「作らない」なので、I グループであることがわかる。「行く」は I グループの「く」が辞書形の動詞なので、ルール通りならば、「行いた」となるはずであるが、「いいた」は「いた」と区別しにくいので、例外的に「行った」になり、「行った、行きました」。「する」は III グループの動詞なので、「した、しました」。「来る」は III グループの動詞なので、「来た、来ました」。

4.1.3 アクティビティ

問 63 カジュアルなスタイルとフォーマルなスタイルの両方で、クラスメートに聞いてみなさい。

Casual:

- A: Suzuki san, mou tabeta?
 B: Un, mou tabeta. / Uun, mada.

Formal:

- A: Tanaka sensei, mou tabemashitaka?
 C: Ee, mou tabemashitayo. / Iie, mada desuyo.

0. a. Suzuki b. tabeta c. mou or mada.
1. a._____ b._____ c._____.
2. a._____ b._____ c._____.
3. a._____ b._____ c._____.
4. a._____ b._____ c._____.
5. a._____ b._____ c._____.

答 63 「もう」「まだ」が使う場面には、「御飯ができた」「宿題が終った」のような完了、未完了を言わなければならない場面を考えるとよい。

4.1.4 ディスカッション

問 64 なるべく短い方法で話すというのはどうだったか？

答 64 短かい文で話すためには、もっとも重要な語を選ぶ必要がある。必要な情報以外を言うと、聞き手は予測していた語以外も聞かなければならない。もっとも重要な語だけを話すと、会話の相手にとっても理解しやすくなる。また、言い間違えたときも、言い直しが簡単である。

問 65 自然な話し方のポイントは？

答 65 必要な内容、相手の期待する内容をできるだけ短かく言うこと。もし、瞬間に考えなければならないときは、黙っていないで、「えーっと」「あのー」などを発話して、話す意思があることを示すこと。

問 66 自分の話し方を改善するために、どのようなテクニックや単語を加えたいか？

答 66 「もう」「まだ」が必要な場面を考える。自分の言語で「もう」「まだ」を使う場面を考えてみる。何を尋ねられたかわからないときは、とりあえず、「えっ？ 何ですか？」と答えておくのもよい。

4.2 誘う・招待する

4.2.1 モデル

問 67 誘う・招待する場面は「食事に誘う」以外にどんな場面があるかを見つけなさい。
また、誘う・招待する場面ではどんなことばが使われるかを観察しなさい。

Casual:

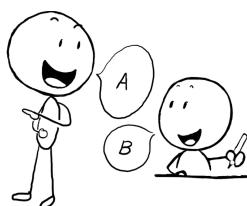
A: Nee, tabeiko / tabeyo? (Let's go to eat!)

B: Un iko. (Yes, let's go) / Un, tabeyo. (Let's eat!)

Formal:

A: Suzuki san, issyo ni tabeikimasho / tabemasho?

B: Ee, ikimasho. / Ee, so shimasho.



答 67 意向形のカジュアル・スタイルとフォーマル・スタイルを学ぶ。意向形の作り方は、Grammar notes を参照のこと。「食べに行こう」は「たべいこ」、「食べよう」は「たべよ」として発音されることが多い。「食べ行きましょう」は「食べいきましょ」として発音される。縮約形は実際に発音されるときの聞こえ方であるだけで、活用形の作り方を学ぶためには平仮名の綴りで覚えるのが便利である。

4.2.2 タスク

問 68 以下の動詞を意向形（カジュアルスタイルとフォーマルスタイル）に変換せよ。

0. **taberu** (eat) → **tabeiko** → **tabeyo** → **tabemasho**

1. nomu (drink) → _____

2. yomu (read) → _____

3. kaku (write) → _____

4. tsukuru (make) → _____

5. kiku (listen) → _____

6. benkyosuru (study) → _____
 7. miru (see) → _____

答 68 「食べる」の場合は、「食べます」の「ます」の前の形「食べ」に「に行く」を付けると「食べに行く」となる。次に「行く」の意向形は「行こう」であるが、速く発音すると「行こ」になり、「う」が短かくなり、ほとんど聞こえなくなる。

4.2.3 アクティビティ

問 69 カジュアルとフォーマルスタイルでクラスメイトに質問しなさい。

A: a) Suzuki san, b) tabeiko?

B: c) Un, iko. / Un, tabeyo.

0. a. Suzuki _____ b. tabeiko _____ c. un tabeyo _____.
 1. a. _____ b. _____ c. _____.
 2. a. _____ b. _____ c. _____.
 3. a. _____ b. _____ c. _____.
 4. a. _____ b. _____ c. _____.
 5. a. _____ b. _____ c. _____.

答 69 「いっしょに」という語を使うのもよいアイデアである。「見に行こ」のときには、「映画」「花火」のような語を使って練習してみるのもよい。

4.2.4 ディスカッション

問 70 このように自然に話せるようになってどんな感じがするか？

答 70 やりとりが続くと会話している感じが出てきて、だんだん自信が付くだろう。本当に自分ひとりで日本語を話していることが実感できるとうれしくなるだろう。自分の母語と同じで、自然な会話は準備しないで話せる会話である。

問 71 自然な話し方のコツとは何か。

答 71 自分がうまくいった方法が他の人にとってもうまくいく方法であるとは限らない。しかし、自分がうまくいった方法やうまくいかなかった方法を共有することは学び方を工夫する点で役に立つ。

問 72 話が上手になるにはどんな単語、どんなテクニックをさらに学ぶとよいか。

答 72 同じ語や表現を何回も使うことが重要である。同じ人に同じことを何回も言えない
ので、複数の人と話ができる環境を作るとよい。パーティやミーティングに積極的に
出かけて、いろいろな人と合うチャンスを作ることが、さまざまな語や表現を覚
えるより重要である。

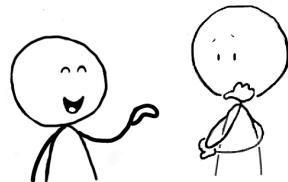
4.3 説得と反応

意向形、否定形、条件形、「じゃ、すればあ～」は少々ぞんざいな言い方、しかし、友達
関係ではよく使う。

4.3.1 モデル

問 73 次の会話のパターンを見て、それぞれどんな感じがするかを話し合いなさい。

- A: Nē, tabeyo? (We gonna eat this)
- B: Ja tabeyo. (OK! I will)
- A: Kore tabeyo? (Let's eat this!)
- C: Uun tabenai. (No, I don't)
- A: Kore tabeyo? (Let's eat this!)
- D: Uun ima wa chotto.. (Uum..not now)
- A: Nē, tabeyo? (We gonna eat this)
- E: Jā tabereba. (You can if you want, but I don't)



答 73 「食べれば」の「ば」は条件の表現である。E を使うときは、友達に話すときに限
ること。

4.3.2 タスク

問 74 以下の動詞を、意向形、否定形、条件形に変換せよ。

0. **taberu (eat)** → tabeyo → tabenai → tabereba

1. nomu (drink) → _____
2. yomu (read) → _____
3. kaku (write) → _____
4. tsukuru (make) → _____
5. kiku (listen) → _____

6. benkyosuru (study) → _____
 7. miru (see) → _____
 8. karaoke iku (go to karaoke) → _____

答 74 0. **taberu** (eat) → **tabeyo** → **tabenai** → **tabereba**

1. nomu (drink) →
 2. yomu (read) →
 3. kaku (write) →
 4. tsukuru (make) →
 5. kiku (listen) →
 6. benkyosuru (study) →
 7. miru (see) →
 8. karaoke iku (go to karaoke) →

4.3.3 アクティビティ

問 75 クラスメイトを説得せよ。

A: a. Suzuki san, Nē, b.sushi c.tabeyo?

B: d. Un, tabenai./ Ja, tabeyo./ Jā, tabereba.

0. a. Suzuki _____ b. sushi _____ c. tabeiko _____ d. jā tabereba .
 1. a. _____ b. _____ c. _____ d. _____.
 2. a. _____ b. _____ c. _____ d. _____.
 3. a. _____ b. _____ c. _____ d. _____.
 4. a. _____ b. _____ c. _____ d. _____.
 5. a. _____ b. _____ c. _____ d. _____.
 6. a. _____ b. _____ c. _____ d. _____.
 7. a. _____ b. _____ c. _____ d. _____.

答 75 条件形の作り方を確認しておく。

4.3.4 ディスカッション

問 76 動詞の活用形を確認せよ。

答 76 このセクションでは、条件形の作り方のみを学んだ。条件形の具体的な使い方は後

の章で学ぶ。

問 77 日本語の動詞の活用を学ぶために、どのようなゲームが考案できるか。

答 77 問題を尋ねて、解決策を回答する。「～ばいい」ゲームを行なう。

1. お金がないとき、どうする。
2. 宿題が多いとき、どうする。
3. お腹がへったとき、どうする。
4. 朝、忙しいとき、どうする。
5. 単語がわからないとき、どうする。

4.4 進行中のことを報告する

4.4.1 モデル

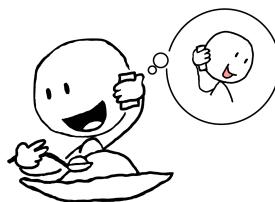
進行形「何してる」を学ぶ。

A: Nani shiteru? (What are you doing?)

B: Ima, tabeteru. (I'm eating now)

Karēraisu, isshoni dō? (How about eating curry rice together?)

A: **Un** (Yes!)/**Ūn yametoku** (No, no thank you)



4.4.2 タスク

問 78 動詞を進行形 (V-teiru/V-teru) に変換する。

- | | |
|--|---------------------------|
| 0. taberu (eat) → tabeteiru / tabeteru | 4. miru (see) → _____ |
| 1. suru (do) → _____ | 5. tsukuru (make) → _____ |
| 2. kuru (come) → _____ | 6. kau (buy) → _____ |
| 3. dekakeru (leave) → _____ | 7. kaku (write) → _____ |

8. iku (go) → _____ 10. nomu (drink) → _____
 9. yomu (read) → _____ 11. mottekuru (bring) → _____

問 79 名詞あるいは自分がやっている動詞を書く。

0. Benkyō → Benkyō, issconi dō? 4. _____
 1. _____ 5. _____
 2. _____ 6. _____
 3. _____ 7. _____

4.4.3 アクティビティ

問 80 クラスマートと会話をして、メモを取る。

A: a. Suzuki san! Nani shiteru?

B: b. Kareraisu tabeteru. Isshoni dō?

A: c. Un! / Uun yametoku.

0. a. Suzuki _____, b. eating a curry rice _____, c. no thank you _____.
 1. a. _____, b. _____, c. _____.
 2. a. _____, b. _____, c. _____.
 3. a. _____, b. _____, c. _____.

4.4.4 ディスカッション

問 81 どのような場合にこの会話が使えるのか？

問 82 今夜これを使うとしたら、どの話題をこの会話に活用するか？

問 83 この文法の面白い使い方を考えよ。

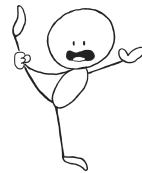
4.5 可能の表現

4.5.1 モデル

可能形「これできる？」「それなら...」

問 84 「できる」が使える場面は以下の場面以外にどんな場面があるかを話し合いなさい。

- A: kore **dekiru?** (Can you do this?)
 B: uun, **dekinai.** (No, I can't)
 A: jā, kore wa? (Well, how about this?)
 B: sore nara, **dekiru.** (If it is, I can)



答 84 たとえば「私は 100m 泳げる」「私は運転できる」のように自分の能力によって「できる」場合と、「この川では泳げる」「この道では運転できない」のように状況的に可能・不可能の場合がある。あなたの母語でも、同じ使い方かどうかを話し合いなさい。

4.5.2 タスク

問 85 動詞を可能形 (V-eru/V-rareru) に変換する。

- | | |
|---|---------------------------|
| 0. suru (do) → dekiru | 6. tsukuru (make) → _____ |
| 1. taberu (eat) → taberereru / tabereru | 7. kau (buy) → _____ |
| 2. kuru (come) → _____ | 8. kaku (write) → _____ |
| 3. dekakeru (leave) → _____ | 9. iku (go) → _____ |
| 4. miru (see) → mieru | 10. yomu (read) → _____ |
| 5. kiku (hear) → kikoeru | 11. nomu (drink) → _____ |

問 86 自分ができる／できない項目やスキルをいくつか書け。

- | | |
|-----------------------|----------|
| 0. ryōri _____ | 3. _____ |
| 1. _____ | 4. _____ |
| 2. _____ | 5. _____ |

4.5.3 アクティビティ

問 87 パートナーと話して、メモを取る。

A: a) Suzuki san b) **ryōri dekiru?** (Suzukisan, can you cook?)

B: uun, **dekinai.** (No, I can't)

A: jā, nani dekiru? (Well, what can you do?)

B: c) **piano hikeru/dekiru.** (I can play piano)

- | | | | |
|----|-----------|------------------|-----------------|
| 0. | a) Suzuki | b) ryōri dekinai | c) piano hikeru |
| 1. | a) | b) | c) |
| 2. | a) | b) | c) |
| 3. | a) | b) | c) |
| 4. | a) | b) | c) |
| 5. | a) | b) | c) |

4.6 ディスカッション

問 88 もっと流暢に相手と会話がするにはどうすればよいかを話し合いなさい。

答 88 文法的な準備よりも知識的な準備をしておくこと。誰かに可能かどうかを尋ねる場面をいくつか考えておいて、練習しておくこと。何かを参考にするのもよいが、自分で考えて準備した方が記憶に残りやすい。

第5章

自然に話すこと: Part 3

5.1 経験を話す

5.1.1 日本食の品名

問 89 図 5.1 は典型的な日本の B 級グルメの写真である。どんな料理か、何が入っているかを話し合いなさい。料理はいくつに分類できるかについても話し合いなさい。

- 答 89
- a. 醤油ラーメン Shōyu Rāmen (Ramen noodles with soy source)
 - b. 塩ラーメン Shio Rāmen (Ramen noodles with salty soup)
 - c. とんこつラーメン Tonkotsu Rāmen (Ramen noodles with Pork Broth)
 - d. 味噌ラーメン Miso Rāmen (Ramen noodles with miso soup)
 - e. 激辛ラーメン Gekikara Rāmen (Spicy hot ramen noodles)
 - f. ざるそば Zaru Soba (Soba noodles served on a bamboo draining basket)
 - g. カケソバ Kake Soba (Simple hot soba noodles)
 - h. カケうどん Kake Udon (Simple hot udon noodles)
 - i. きつねそば・うどん Kitsune Soba/Udon (Noodles topped with deep-fried tofu)
 - j. たぬきそば Tanuki Soba (Soba noodles with crunchy bits of deep-fried dough)
 - k. たぬきうどん Tanuki Udon (Udon noodles with crunchy bits of deep-fried dough)
 - l. かきあげそば Kakiage Soba (Soba noodles topped with mixed vegetables tempura)
 - m. 肉うどん Niku Udon (Udon noodles in a hot soup with beef)
 - n. 焼きそば Yaki Soba (Fried noodle with vegetables and meat)
 - o. カレーうどん Curry Udon (Udon noodles in a hot, thick curry soup)
 - p. かきあげ丼 Kakiage Don (Rice bowl topped with mixed vegetables)
 - q. 天丼 Tendon (Rice bowl topped with mixed vegetables and shrimp)
 - r. カレーライス Curry Rice (Curry source over rice)
 - s. カツカレーライス Katsu Curry Rice (Pork cutlet curry source over rice)
 - t. オムライス Omu Rice (Pork cutlet curry over rice)
 - Creative Commons License^{*1}

^{*1} Creative commons license by a. CC BY 多摩に暇人; b. CC 継承 4.0 Lombroso; c. CC 継承 4.0



図 5.1 Japanese food menu

5.1.2 タスク

問 90 経験の表現（～たことがある）、食べ物に関する形容詞の練習。

- A: Suzuki san, karē raisu **tabeta koto aru?** (Have you ever eaten karē raisu?)
 B: Aru (yes) / nai (no) / arimasu / arimasen

博多からきた女; d. CC Lombroso; e. CC 継承 3.0 非移植 小太刀; f. CC 継承 4.0 國際 Edomura no Tokuzo; g. CC1.0 毒島みるく; h. GFDL; i. GFDL; j. CC 継承 2.0 Opponent; k. CC 継承 2.0 Ewan Munro; l. CC 表示 2.0 shibainu from Hatsudai, Shibuya, Tokyo; m. GFDL Hykw-a4; n. Public domain; o. Public domain Lombroso; p. CC 表示 2.0 chidorian; q. CC 継承 4.0 國際 Edomura no Tokuzo; r. CC1.0 Ocdp; s. CC 継承 3.0 非移植 Hykw-a4; t. CC 継承 2.0 hirotomo t from Japan;

0. Curry rice _____ 3. _____
 1. _____ 4. _____
 2. _____ 5. _____

答 90 「～たことがある」は経験を表わす表現である。動詞のテ形の「テ」を「タ」に置き換えて、動詞「～た」の形を作る。

問 91 形容詞を否定形に変換する練習。

0. oisii? (tasty) → _____ 4. tsumetai? (cold) → _____
 1. amai? (sweet) → _____ 5. suppai? (sour) → _____
 2. karai? (spicy) → _____ 6. nigai? (bitter) → _____
 3. atatakai? (warm) → _____ 7. atsui? (hot) → _____

5.1.3 アクティビティ

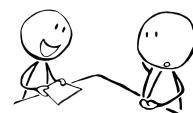
問 92 クラスマートに何を食べるかを聞く。おいしいかどうか意見を求められて、何かを言わなければならないとき、まあね、まあまあ、などと答える。

A: a. Suzuki san, nani taberu? (What are you going to eat?)

B: b. Karē raisu. (Curry rice.)

A: Sore oishii? (Is that tasty?)

B: c. Un, oishiiyo. / ee, māne. (so so) /
ūn, shiranai (don't know) / mā, nantonaku (somehow seems good).



0. a. _____ b. _____ c. _____.
 1. a. _____ b. _____ c. _____.
 2. a. _____ b. _____ c. _____.
 3. a. _____ b. _____ c. _____.
 4. a. _____ b. _____ c. _____.
 5. a. _____ b. _____ c. _____.
 6. a. _____ b. _____ c. _____.

答 92 はっきりと「おいしくない」という場面は、多くないことは少し考えればわかるだろう。

5.1.4 ディスカッション

問 93 自然に話すには何が重要か。

問 94 会話を上達させるためにはどんな単語が必要ですか。

問 95 より自然に話すためには、どんなテクニックをプラスすればいいのでしょうか？

5.2 ～ようと思ったけど

5.2.1 モデル

A: kinou itta? (Did you go there yesterday?)

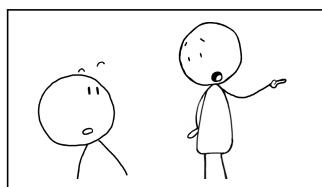
B: ikou to omotta ked... (I tried to go there, but..)

A: dou shita no? (What happened?)

B: ikanakatta (I did not go there.)

A: doushite? (Why?)

B: chotto isogashikatta (I was busy) / wasureta (I forgot)



5.2.2 タスク

問 96 次の動詞を過去形と動詞の形に変換せよ。GN(文法ノート) や動詞のチートシートが用意されている。

0. tsukuru (make) → tsukutta, tsukurō 6. yomu (read) → _____
1. suru (do) → _____ 7. kaku (write) → _____
2. kuru (come) → _____ 8. iku (go) → _____
3. hairu (enter) → _____ 9. asobu (play) → _____
4. deru (leave) → _____ 10. taberu (eat) → _____
5. dekakeru (leave) → _____ 11. nomu (drink) → _____

12. kau (buy) → _____ 14. mottekuru (bring) → _____
 13. miru (see) → _____ 15. kureru (give me) → _____

答 96 いつものように、3G, 2G, そして、1G の順で説明する。「する」と「くる」は次のように変換する。3G suru → shiyou, kuru → koyou 2G は辞書形の動詞語末の ru を you に置き換える。2G taberu → tabeyou; 1G は辞書形の動詞語末の u を ou に置き換える。1G tsukuru → tsukurou, kau → kaou.

5.2.3 アクティビティ

問 97 会話をして、ノートを取りなさい。

A: a.a. Suzuki san! doushita no?

B: b.b. Ikou to omotta kedo...

A: doushita no?

B: ikanakatta.

A: doushite?

B: c. chotto isogashikatta.

0. a. Suzuki _____, b. go (ikou) _____, c. isogashikatta _____.

1. a. _____, b. _____, c. _____.

2. a. _____, b. _____, c. _____.

3. a. _____, b. _____, c. _____.

4. a. _____, b. _____, c. _____.

5. a. _____, b. _____, c. _____.

6. a. _____, b. _____, c. _____.

5.2.4 ディスカッション

問 98 もっと使ってみたいと思ったのはどんな動詞か？

答 98 動詞だけでなく、理由もいっしょに考えておくとよい。

問 99 その動詞をどのタイミングで使いたいと思ったか？

答 99 何か理由があって、それができなかつたときに使える。もちろん、やりたくない

いうのも理由である。

問 100 流暢に会話するためには、どのようなテクニックが必要か？

答 100 相手に聞かれたらすぐに返答すること。言いたいことがわからないときは、「えーと」「そのう」など言っておき、黙ったままでいないこと。

5.3 アドバイスを求める・する

5.3.1 モデル

問 101 アドバイスを求める表現について学ぶ。「～ばいい」の表現に注目して次のモデルを読みなさい。

- A: Happyou, dou sureba ii? (My presentation, how should I do it?)
- B: Senpai ni kikeba ii yo! (Asking your senior would be a good idea!)
- C: Dousureba ii darounee... (How can you do for it...I don't know either!)

答 101 「～ばいい」の表現は確かに条件の表現だが、ここでの使い方は誰かにアドバイスするときの表現である。

5.3.2 タスク

問 102 動詞を条件形に変換する。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 0. suru (do) → sureba ii _____ | 6. kau (buy) → _____ |
| 1. kuru (come) → _____ | 7. kaku (write) → _____ |
| 2. taberu (eat) → _____ | 8. iku (go) → _____ |
| 3. dekakeru (leave) → _____ | 9. yomu (read) → _____ |
| 4. miru (see) → _____ | 10. nomu (drink) → _____ |
| 5. tsukuru (make) → _____ | 11. mottekuru (bring) → _____ |

答 102 条件の表現、条件形の作り方は Grammar notes を参照のこと。

問 103 どうしたらしいかわからないことを書き出す。

0. happyou 4. _____
1. _____ 5. _____
2. _____ 6. _____
3. _____ 7. _____

答 103 書類の書き方、料理の作り方、友達の作り方などもよい。もし、それらの方法を知っている場合には、どうアドバイスするか考えてみよう。

5.3.3 アクティビティ

問 104 会話をして、メモを取る。

A: a. Suzuki san! b. Happyou , dou sureba ii?

B: c. Senpai ni kikeba ii yo!

0. a. Suzuki , b. happyo , c. senpai ni kikeba ii .
1. a. _____ , b. _____ , c. _____ .
2. a. _____ , b. _____ , c. _____ .
3. a. _____ , b. _____ , c. _____ .

答 104 わからないときは、「私もわからない」と答えよう。「私もわからない。いっしょに考えましょう」というのもよい。「いっしょに調べましょう」「図書館へ行ってみましょう」などもよい。

5.3.4 ディスカッション

問 105 「～ば」の形はどのような活用をする？

答 105 3G は「する」→「すれば」、「くる」→「くれば」。2G は「る」→「れば」、たとえば「見る」→「見れば」、「食べる」→「食べれば」。1G は「u」→「e ば」、たとえば「書く」→「書けば」、「読む」→「読めば」。

問 106 いつこの表現を使うか。

答 106 誰かにアドバイスするときにも使える。その他、あまり自信はないが、何かアイデアを述べるとき、「こうすればいいかなあ」のように使える。

5.4 後悔の念

5.4.1 モデル

問 107 自然な動詞の使い方として、「すればよかった」を学ぶ。「おもしろかった」「たのしかった」などイ形容詞過去形を使って、感想を述べる練習をする。

- A: Kinou no paatii, tanoshikatta! (The party in yesterday was fun!)
- B: Aa, **ikeba yokatta!** (I should've been there!)
- A: Sou! **ikeba yokatta noni!** (Sorry, you should've been there!)
- B: Honto! **zannen!** (True! I missed a chance!)

答 107 過去しなかったことを後悔することはよくあるが、それを言う人は少ない。理由はよくわからないが、表現の形式が難しかったり、言う機会があまり多くないことが多いなどが考えられる。しかし、後悔していることを伝えることは、次回、誰かがチャンスをくれるかもしれない。

5.4.2 タスク

問 108 動詞を条件形に書き換えよ。

- suru (do) → sureba yokatta _____
- kuru (come) → _____
- taberu (eat) → _____
- dekakeru (leave) → _____
- miru (see) → _____
- tsukuru (make) → _____
- kau (buy) → _____
- kaku (write) → _____
- iku (go) → _____
- yomu (read) → _____
- nomu (drink) → _____
- mottekuru (bring) → _____

答 108 動詞の条件形の作り方は、§5.3.4 を参照のこと。

問 109 参加したイベントや、最近行ったことなど、印象に残っているイベント名を書いてみよ。

0. party, fun/tanoshikatta _____ 2. _____
1. _____ 3. _____

4. _____ 6. _____
5. _____ 7. _____

答 109 だいたいの形容詞が使えるはずだ。日本語の場合はイ形容詞を選んで過去形にして練習しておく。

5.4.3 アクティビティ

問 110 会話をして、メモを取る。

A: Kinou no a. eiga , b. omoshirokatta!

B: c. Ikeba yokatta yo!

A: Sou! c. ikeba yokatta noni!

B: Ah, zannen!

0. a. Eiga _____, b. omoshirokatta _____, c. ikeba yokatta _____.
1. a. _____, b. _____, c. _____.
2. a. _____, b. _____, c. _____.
3. a. _____, b. _____, c. _____.
4. a. _____, b. _____, c. _____.
5. a. _____, b. _____, c. _____.
6. a. _____, b. _____, c. _____.
7. a. _____, b. _____, c. _____.
8. a. _____, b. _____, c. _____.
9. a. _____, b. _____, c. _____.
10. a. _____, b. _____, c. _____.

答 110 「のに」ということばは残念な気持ちを表わす。「残念」という以外にも、「行けばよかったね」と同じことばを繰り返してもよい。「じゃ、次回」「じゃ、次は是非」という返答もよい。それに類する回答にどんなものがあるかを話し合いましょう。

5.4.4 ディスカッション

問 111 動詞 + 「ば」の形はどのような活用をするか？

答 111 動詞の条件形の作り方は、§5.3.4 を参照のこと。

問 112 あなたは今迄に「チャンスを逃した」経験はあるか。もし、あれば、そのときの経験を共有しなさい。もし、なければ、経験を聞いて、「～ばよかったね」と反応しなさい。

間113 パートナーとの会話がより流暢にできるようになったかどうか話し合え？

答113 ここまでに「すぐ反応する」のが重要だと説明した。反応できないときには、「え

えと」「あのう」などを言ってとにかく「何かを言う」こと。他に本当に何も言えなかったときには、相手の目を見て「うなづく」こと。いずれにしても、相手のことを聞いていることを伝えなければならない。そうしなければ、相手を無視することになる。これは絶対に避けなければならない。

5.5 理由を並べて言う

5.5.1 モデル

問 114 理由を並べて言うときは、「... し、 ... し、 ...」の構文を使う。

A: Doushite pa-thi- ni ikanai n desuka? (why won't you go to the party?)

B: Anou, okane ga nai **shi**, shukudai ga aru **shi**.. (well, because I have no money, and I have homework...)

A: Soudesuka. Zannen, tanoshii **noni** .. (so, so sorry, but it's fun)

答 114 「どうして…んですか」は理由を尋ねる構文である。「～のに」の後ろには反対の内容がくる。たとえば、「おいしいのに、誰も食べない」「このマンガはおもしろいのに、誰も読まない」など。「～のに」で終わると、「変だ、残念だ」という感じがする。

5.5.2 タスク

問 115 動詞を否定形にする。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 0. suru (do) → shinai | 6. kau (buy) → _____ |
| 1. kuru (come) → _____ | 7. kaku (write) → _____ |
| 2. taberu (eat) → _____ | 8. iku (go) → _____ |
| 3. dekakeru (leave) → _____ | 9. yomu (read) → _____ |
| 4. miru (see) → _____ | 10. nomu (drink) → _____ |
| 5. tsukuru (make) → _____ | 11. mottekuru (bring) → _____ |

問 116 人がやりたがらないイベントや行動を書き出してみよ。そして、やりたくない気持ちを想像して、理由を書き出してみよ。

0. party, okane ga nai/shukudai ga aru _____

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____
6. _____
7. _____

答 116 イベントなら、旅行、遠足、スポーツ大会など、習い事なら、ピアノ、習字、お茶、お花など、時間やお金がかかることを会話の材料を使う。

5.5.3 アクティビティ

問 117 会話をし、メモを取る。

A: Doushite a. pa-thi- ni ikanai no?

Why aren't you going to the party?

B: b. okane ga nai shi, shukudai mo aru shi...

I don't have any money, I have homework, I...

A: Sou? c. tanoshii noni!

Yeah? The party is fun.

0. a. Party b. okane ga nai, shukudai mo aru c. tanoshii noni.

1. a. _____ b. _____ c. _____.

2. a. _____ b. _____ c. _____.

3. a. _____ b. _____ c. _____.

4. a. _____ b. _____ c. _____.

5. a. _____ b. _____ c. _____.

答 117 この場合、理由を並べて言うと、主張するだけでなく、断りの意思を表現することができる。このことは、おそらく、どの言語でも同じであろう。理由を並べて言うと、直接的に言わなくても、間接的に主張することができる。

5.5.4 ディスカッション

問 118 この「... し、 ... し」という表現は、他にどんな場面で使いますか？

答 118 二つの似た絵が同じかどうかを聞かれて答えるとき、「色が違うし、形も変だし、...」のように使える。

問 119 この表現と一緒に使えるのはどんな単語か？

答 119 同じ傾向や内容を持つ単語を使う。マイナスなら、マイナス傾向の単語を並べ、プラスなら、プラス傾向の単語を並べるとよい。

第6章

ストラテジー: Strategic patterns

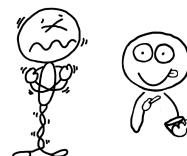
6.1 ひとり言をいう: Talk to yourself

ひとり言を言って、日本語の口の筋トレをしよう。ひとり言をいう練習は、口、顎、舌の筋肉の練習である。日本語に必要な筋肉の動かし方は、何度も日本語を話して動かすのがよい。しかし、同じことばを他人に何度も言うことはできない。ひとり言は誰もいないところで、話すことばであるが、誰かがたまたま聞いていたとしても自然な行為である。

6.1.1 モデル

問 120 つぎのことばをできるだけ自然なひとり言でいってみよ。

A: Uma! (deliciou), Sugo! (cool!), Samu! (it's cold!)



6.1.2 ひとり言のリスト

1. 意味わからんna
2. 基本怒ってる時にしか言わないが「意味わからん」「なんで?」などは言ったことがある気がする。
3. これはすごい
4. えっとー,
5. えーつ,
6. よっしゃ
7. 考え事をしている際に「うーん」や「なるほど」など無意識に発することがある。
8. うるさ、うるさい、うるせえな
9. 助けてくれえ
10. 待って！
11. やべっ（なにか忘れ物をしたと気づいた時）

12. 痛い！（実際は痛くないこともある）
13. んーと
14. 疲れたー。
15. あ、違う。
16. めんどくさ, めんどくせえ, めんどい——
17. あー、なんでだろう。
18. 無理、不可能
19. 料理を作って味見した際の「うまっ」。
20. なんでこれ動くんだ？
21. この部屋寒くね？
22. さて、頑張りますか
23. ぜんぜんわからん
24. あれ、何しようとしてたんだっけ
25. あー疲れた
26. ホント？
27. こいつがこうなって… あっ解けたかも。

答 120 このリストだけを見ていたのでは、使い方はよくわからないので、実際に言っているところをビデオで探してみるとよい。マンガから独り言のパターンを選ぶのもよい。

6.1.3 タスク

問 121 上のリストを使って、ひとり言を言ってみよ。

答 121 あー、もう食べられない。お腹、いっぱい。

問 122 思わず母語で言ってしまったひとり言を書きなさい。

答 122 自分でよく言う独り言を日本語でも言えるようにしておけば、その独り言を癖のように自然に言うことができる。

問 123 どんなひとり言を言ったことがあるか、日本人に聞いてみなさい。

問 124 自分のひとり言のリストを作ってみよ

6.2 相づちを打つ: Giving a response—Aizuchi words

6.2.1 リスト: f..formal, c..casual, b..both

1. はい/いいえ [f]
2. うん, ああ [c]
3. そう/そうですか [c,f]
4. よさそう [b]
5. そう思う [b]
6. ですねえ [b]
7. ええ, まったく [b]
8. いい, いいですね [b]
9. いいよ [c]
10. なるほど, そっか [b,c]
11. 確かに [b]
12. ゼッたい [c]
13. そのとおり [c]
14. ほんとに, マジで?, へえ? [b,c,c]
15. そうなの? [c]
16. おそらく, たぶん, そうかも [b]
17. かも, だろうね, かもしれない [c]
18. それはよかった [b]
19. だろ? [c]
20. でしょう? [c]
21. びっくり [c]
22. すごーい! [c]
23. ほら! [c]
24. 信じられない [c]

6.2.2 ゲーム

問 125 「あいづち」を使いながら、次の方法でゲームをしなさい。

1. 3人組になる。
2. A があいづち語を B に言う、B はあいづち語を C に言う、C はあいづち語を A に

言う。できるだけ早くこれを繰り返す。

3. できるだけ早く言葉を発することに失敗した者が、ゲームに負け。

答 125 このゲームに有利なのは、速く答えること、いろいろなあいづちパターンを知っていること、である。

6.2.3 アクティビティ

問 126 あいづちを使って次のトピックでクラスメートと話しなさい。

1. このクラスの印象
2. 日本人の印象
3. 日本の食品の価格の印象
4. 日本のアニメの印象

答 126 あいづち以外に、相手の発話に対して用意しておくべき反応として、「肯定」「否定」「保留」などの態度が考えられる。これらの態度を表現するのに便利な表現を用意しておくとよい。

6.2.4 ディスカッション

問 127 他にどんなあいづち語を知っているか。それをシェアしなさい。

答 127 もし、あなたの母語と同じ音、同じタイミングで発話されるあいづち語があれば、それを上手に使おう。

問 128 あいづちは何回まで使えるか、あいづちの限界について話し合え。

答 128 英語の場合、短いものなら、何回でも使える。長いものは、口癖だと思われる。これは日本語でも同じである。

問 129 あいづちの他に、会話を止めないためには、どんなテクニックを使えばよいか。

答 129 「ええと」「あのう」のように間投詞を入れることは一般的な方法である。「ちょっと、わからないが、田中さんはどう思う?」と質問することもできる。少し強引な方法かもしれないが、「ところで」と言ってトピックを変えてしまう方法もある。

6.3 3語で話す: Three-word conversational sentences

6.3.1 3語以内で日本語を話す

問 130 なるべく短く話す。2語フレーズは簡単。3語フレーズに挑戦しましょう。

1. エ, zehi, dōzo. (By all means, please)
2. itsudemo dōzo. (Please at any time)
3. kore dō desuka? (What about this?)
4. korekara dō desuka? (How about now?)
5. ima made mada. (Until now, it's not yet)
6. amari shiranai. (I do not know too much)
7. yoku wakaranai desune. (I do not know)
8. sō omou. (I think so)
9. ima, totemo ninki. (Now, it's very popular)
10. tokuni arimasen. (Nothing special)
11. betsubetsuni onegai shimasu. (We will pay it separately)
12. mitakattara mireba... (If you want to see it, go ahead)
13. jitsuwa dō darō. (How is it in fact?)
14. koko wa Ueno no doubutsuensch. (Here is Zoo in Ueno)
15. kochira Ōsaka no Tsūtenkaku. (Here, Tsūtenkaku in Osaka)
16. ochitsuke, tonikaku, ochitsuke. (calm down, anyway, calm down)
17. minna genki janai to. (I hope everybody is fine/doing well)
18. iroiro tsukiawasete gomenne. (I'm sorry I've put you through so much)
19. kore tsukatte iikana? (Can I use this?)
20. korette sugoku nai? (isn't this amazing?)

答 130 「落ち付け、とにかく、落ち付け」のように繰り返してもよい。そのように考える
とほとんどの会話のフレーズは3語以内で発話できると考えてもよいだろう。

6.3.2 タスク

問 131 自分で3語のフレーズを作って、書き出してみよ。そのフレーズを共有せよ。

答 131 3語フレーズはテレビやインターネットを見ていたら、すぐに見つかるので、あまり難しくない。ぜひやってみてほしい。

6.3.3 アクティビティ

問 132 3語フレーズをクラスメートと共有し、書き出しなさい。

A: a. Suzuki san! donna no aru? (What kind of it do you have?)

B: Bokuno(m)/watashino(f) wa b. nan darō nē .. desune. (Mine is “I don’t get it”)

0. a. _____ Suzuki b. _____ nan darō nē ..
1. a. _____ b. _____
2. a. _____ b. _____
3. a. _____ b. _____
4. a. _____ b. _____
5. a. _____ b. _____

答 132 「私は、何、だろうねえ」は、ちょっと考え込んでいるときの表現として発話する
と便利である。

6.3.4 ディスカッション

問 133 3語フレーズで話したとき、どのように感じたかを話し合え。

答 133 ものの感じ方は人それぞれなので、決ったものはないが、少なくとも、3語と決め
て話しへじめると多少簡単に感じたのではないだろうか。次に簡単と感じたなら、
少し自信がついたような気がしただろう。常に言い方を簡単にする工夫を考えてみ
ることを続けてみよう。

問 134 3語のフレーズは、1) 学ぶのは簡単か難しいか、2) 発音するのは簡単か難しいか、
3) 覚えるのは簡単か難しいか、話し合え。

答 134 3語のフレーズを話してみるとやさしくなることがわかるだろう。覚えるのもやさ
しくなるだろう。短いフレーズにしてみると発音の難しいと感じていた箇所もわ
かりやすくなるだろう。また、短いフレーズにして覚えると次に少し速く発音してみ
ようと思うだろう。

問 135 3語フレーズを他のフレーズにつなげる方法について話し合え。

答 135 初めから、長いフレーズに繋げるようとせず、まず短いフレーズに繋げることを考えること。

問 136 他の3語フレーズの探し方について話し合え。

答 136 上手に話すためには、さまざまな会話の場面をたくさん聞くこと。昔からその言語で放送されるラジオを聞いて、書き写す練習が推奨されてきた。今はインターネットにいろいろなビデオ・ファイルがアップロードされているので、自分の好きな動画を選んで聞き取りの練習ができる。

6.4 感じていることをいう: Expressing your feelings

6.4.1 思うこと/感じることを表現する: 形容詞

問 137 形容詞、その他の語を使って感情を表現する。

- | | |
|---|--|
| 1. atsui: It's hot | 13. nemutai: I'm sleepy |
| 2. bikkuri shita: I'm surprised! | 14. nodo kawaita: I'm thirsty |
| 3. iraira (shiteiru): irritated | 15. okotteiru: I'm angry |
| 4. samui: It's cold | 16. onaka ga suiteiru: I'm hungry |
| 5. gakkari: I'm disappointed | 17. onaka ippai: I'm full |
| 6. guai ga warui: I'm sick | 18. samishii: lonely |
| 7. itai: I'm in pain | 19. tanoshii: I have fun |
| 8. kinchō shiteiru: I'm nervous | 20. tsumaranai: I'm bored |
| 9. hazukashii: I'm ashamed of... | 21. tsukaretā: I'm tired |
| 10. kanashii: I'm sad | 22. ureshii: happy |
| 11. kowai: scared | 23. urusai: noisy |
| 12. manzoku manzoku: I'm satisfied | 24. wakuwaku suru: I'm exciting |

答 137 感情を表現するには、イ形容詞を使うと便利である。ナ形容詞も使えるが、そのときの活用は名詞と同じなので、特に活用形について意識することはない。したがって、感情を表現するときは、イ形容詞を使うということを覚えておけばよい。

6.4.2 タスク

問 138 そのように思う・感じる理由を書け。

0. _____ onaka ga hetta ... 3. _____
 1. _____ 4. _____
 2. _____ 5. _____

答 138 明確な理由がない場合も多々ある。理由がはっきりしないときの言い方も覚えておくと便利である。「なんとなく」「そんな気がした」などの表現が使える。

6.4.3 アクティビティ

問 139 次の会話に倣って、気持ちを表すことばを使いなさい。

- A: a) Suzuki san dōshita no? (what happens?)
 B: b) purezento moratta! c) ureshii! (I've got a present. I am happy)
 A: a) Suzuki san dōshita no? (what happens?)
 B: b) ashita eiga iku. c) wakuwaku (I will go to the movies. I'm exciting)

- 0-a. a) Suzuki b) purezento moratta c) ureshii
 0-b. a) Suzuki b) eiga iku c) wakuwaku
 1. a)_____ b)_____ c)_____
 2. a)_____ b)_____ c)_____
 3. a)_____ b)_____ c)_____
 4. a)_____ b)_____ c)_____
 5. a)_____ b)_____ c)_____

6.4.4 ディスカッション

問 140 感情を表現するのにもっと必要だと思った単語はどんな単語か。

問 141 感情を表現する文を今日どんな時に使ってみようと思うか。

6.5 動詞を作つてみよう: Making a verb

6.5.1 動詞を作る

問 142 日本語の名詞を動詞として使う場合は、以下のようにします。他の英語の動詞についてどう変化させるか話し合いなさい。

1. 名詞 + する → 動詞 III: テニス + する = テニスする; テニスして
2. 名詞 + る → 動詞 I: グーグル + る = ググる; ググって

6.5.2 タスク

問 143 楽器の名前、料理人の名前、手段の名前、道具の名前、食べ物の名前などの名詞を取り上げ、動詞に変換し、書き出してみましょう。そして、それらのフレーズをパートナーと共有しましょう。

1. _____ 5. _____
2. _____ 6. _____
3. _____ 7. _____
4. _____ 8. _____

6.5.3 アクティビティ

問 144 3語フレーズをクラスメートと共有し、書き出しなさい。以下の例のように自分で作った動詞を使って、簡単な会話をしてみなさい。

A: a. Suzuki san! b. Gugutta? (Did you look it up on Google?)

B: c. Un gugutta./ Uun mada. (Yes I did / No, not yet)

A: a. Tanaka san! b. Tenisu suru? (Did you play tennis now?)

B: c. Un suru / Uun chotto ima wa (Yes I will / No, not now)

A: a. Tanaka san! b. Tenisu shita? (Have you ever played tennis?)

B: c. Un shita / Uun mada. (Yes, I have / No, not yet)

0. a. _____ Suzuki b. _____ Gugutta c. _____ Uun mada _____.
1. a. _____ b. _____ c. _____.
2. a. _____ b. _____ c. _____.
3. a. _____ b. _____ c. _____.
4. a. _____ b. _____ c. _____.
5. a. _____ b. _____ c. _____.
6. a. _____ b. _____ c. _____.

6.5.4 ディスカッション

問 145 どんな種類の名詞が動詞として使えるか、話し合いなさい。

問 146 どんな時動詞化された名詞が必要だと思うか話し合いなさい。

問 147 あなたが作った動詞化された名詞に、その正式な動詞があるかどうかをチェックしてください。

6.6 英語を日本語風に: Pronounce English in a Japanese way

問 148 日本語で何と言うかわからないときには英語を使うのが便利である。英語風に発音しないで日本語風に発音すると偶然外来語として使える場合がある。日本語風に発音する方法について話し合う。

6.6.1 発音

問 149 英単語をいくつか選んで、自分で日本風に発音してみましょう。

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1. artist → AAtIstO | 6. train → |
| 2. chocolate → chOcOIEItO | 7. toilet → |
| 3. straight → sUtOIEItO | 8. spring → |
| 4. super market → sUpAA mAakEttO | 9. Disneyland → |
| 5. express → EkUsUpUIEsU | 10. Universal Studio → |

6.6.2 タスク

問 150 上記の中にどんなルールが存在するかを話し合いなさい。

問 151 それぞれの母音は英語の母音とどう違うかを話し合いなさい。

問 152 それぞれの子音は英語の子音とどう違うかを話し合いなさい。

問 153 英単語をいくつか選んで、自分で日本語風に発音してみましょう。

1. _____ 5. _____
2. _____ 6. _____
3. _____ 7. _____
4. _____ 8. _____

6.6.3 アクティビティ

問 154 英単語を使って日本語風の発音で簡単な会話をしてみましょう。相手が使った単語をメモして、その単語の発音を繰り返してみてください。

1. _____ 5. _____
2. _____ 6. _____
3. _____ 7. _____
4. _____ 8. _____

6.6.4 ディスカッション

問 155 このテクニックはどんな時に有効かを話し合え。

問 156 このテクニックは誰に対して有効かを話し合え。

問 157 日本語風に発音した英単語は日本語として存在するかどうかを確かめなさい。

問 158 外来語としての日本語単語の意味と英単語の意味が同じかどうかを確かめなさい。

裏表紙について



写真の日時計にはラテン語で“Carpe Diem”（カルペ・ディアム）と彫ってあります。英語では“Seize the day”、日本語では「その日を摘め」と訳されています。そこには「その日を楽しみ、精一杯いきること」という意味があります。紀元前1世紀の古代ローマの詩人ホラティウスの詩に登場する句で、映画“Dead Poets Society”（1989年、邦題「いまを生きる」ロビン・ウィリアムズ主演）にも出てきます。

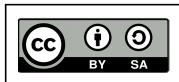
クィントゥス・ホラティウス・フラックス
Quintus Horatius Flaccus
BC.65.12.8-BC.8.11.27
古代ローマ時代の南イタリアの詩人

日本語: ナチュラル・ステップ: 自然な言語の学び方と話し方

2024年11月26日

著者: 山元啓史

東京工業大学





CARPE DIEM